

# 令和3年度 「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る 文部科学大臣表彰



## 表彰活動一覧



令和4年2月  
文部科学省

## はじめに

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子供の基本的な生活習慣や豊かな情操、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図る上で、重要な役割を担うものです。

一方で、ひとり親家庭の増加や地域のつながりの希薄化など、家庭を取り巻く環境の変化とともに、児童虐待や不登校など、子供の育ちをめぐる課題が懸念されています。こうした中、保護者が安心して家庭教育を行うために、家庭教育支援の重要性は一層高まっています。

このため、文部科学省では、地域における子育て経験者や元教員など多様な人材による「家庭教育支援チーム」の組織化の推進など、地域の実情に応じた家庭教育支援の取組を支援しています。

本冊子は、令和3年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰において表彰された、全国の「家庭教育支援チーム」31団体の活動を取りまとめたものです。

各チームにおける地域の課題解決に向けた取組や、効果的な支援のための連携、工夫などが盛り込まれた具体的な実践事例集となっています。

今後、広く全国の様々な地域において、家庭教育支援の取組を更に充実していくための御参考として活用いただければ幸いです。

文部科学省総合教育政策局  
地域学習推進課家庭教育支援室

# 目次

No	都道府県名	市町村名(活動拠点)	「家庭教育支援チーム」の名称	頁
1	北海道	いわみざわし 岩見沢市	家庭教育なんでも相談「さあ来る」	2
2	青森県	かみきたぐんよこほままち 上北郡横浜町	横浜町家庭教育支援チーム(子育て応援推進委員会)	4
3	岩手県	みやこし 宮古市	特定非営利活動法人 ふれあいステーション・あい	6
4	秋田県	のしろし 能代市	能代市家庭教育支援チーム「あそびのひろば・ぱれっと」	8
5	山形県	しんじょうし 新庄市	家庭教育応援・ボランティア活動団体 アベルんち	10
6	福島県	やまぐんにしあいづまち 耶麻郡西会津町	家庭教育相談室「こころのオアシス」	12
7	茨城県	さしまぐんごかまち 猿島郡五霞町	五霞町家庭教育支援チーム	14
8	栃木県	もおかし、はがぐん、ましこまち、もてぎまち 真岡市、芳賀郡(益子町、茂木町、 いちかいまち、はがまち、なすぐんなかがわまち 市貝町、芳賀町)、那須郡那珂川町	県東親育ちスマイルネット	16
9	群馬県	あんなかし 安中市	安中市家庭教育支援チーム「ビーイング」	18
10	埼玉県	はにゅうし 羽生市	NPO法人 羽生子育てサポートキャロット	20
11	千葉県	いんぼぐんさかえまち 印旛郡栄町	栄町家庭教育支援チーム	22
12	新潟県	とおかまちし 十日町市	十日町市家庭教育支援チーム「なかよしランド」	24
13	石川県	ののいちし 野々市市	野々市市家庭教育サポーター	26
14	福井県	えちぜんし 越前市	オレンジサポーターズ	28
15	岐阜県	かいづし 海津市	海津市家庭教育推進協議会	30
16	愛知県	ちたぐんたけとよちよう 知多郡武豊町	特定非営利活動法人 Smiley Dream	32
17	滋賀県	こなんし 湖南市	三雲小学校家庭教育支援チーム	34
18	京都府	そうらくんかさぎちよう 相楽郡笠置町	笠置地域学校協働本部 家庭教育支援チーム(ほっとサロン)	36
19	大阪府	ねやがわし 寝屋川市	寝屋川市家庭教育サポートチーム	38
20	奈良県	きたかつらぎぐんこうりょうちよう 北葛城郡広陵町	特定非営利活動法人 家族・子育てを応援する会	40
21	和歌山県	はしもとし 橋本市	橋本市家庭教育支援チーム ヘステリア	42
22	鳥取県	よなごし 米子市	米子市家庭教育支援チームとことこ・タムタム	44
23	岡山県	つくほぐんはやしまちよう 都窪郡早島町	家庭教育支援チーム「すくすくハート」	46
24	広島県	くれし 呉市	呉市教育会	48
25	山口県	ながとし 長門市	ふあみ	50
26	香川県	まるがめし 丸亀市	認定特定非営利活動法人 さぬきっずコムシアター	52
27	愛媛県	うわじまし 宇和島市	宇和島市家庭教育支援チーム	54
28	佐賀県	からつし 唐津市	特定非営利活動法人 唐津市子育て支援情報センター	56
29	大分県	ゆふし 由布市	はさま未来クラブ	58
30	宮崎県	こゆぐんつのちよう 児湯郡都農町	都農町家庭教育応援団「さん・さん」	60
31	沖縄県	なごし 名護市	名護市家庭教育支援チーム	62

## 【岩見沢市家庭教育支援チーム・ 家庭教育なんでも相談「さあ来る」】

### チーム・活動の紹介

【岩見沢市家庭教育支援チーム・家庭教育なんでも相談「さあ来る」】は、岩見沢市教育委員会主催の「家庭教育指導者養成講座」を修了したメンバーで構成しており、2011年3月の結成以来、子育て中の保護者の悩みやストレスをできるだけ軽減できるよう、様々な支援を行っています。

名称には、「保護者の思いをしっかりと受け止めます、さあ、来て下さい」という思いを込めており、不安を抱えながらも日々子育てに奮闘している保護者の皆さんが、一時ホッとできる日だまりのような空間を提供したいと思って活動しています。

毎月1回実施している「家庭教育なんでも相談」では、メンバーは保護者の自由な話し合いや子どもの遊びを見守ったり、時には話し合いに加わって経験談を話すなど、子どもと保護者の心身の安定を一番に考えた支援を行っています。

### チーム・活動の体制

◇活動開始年月：2011年3月

◇活動拠点：北海道岩見沢市 人口78,223人（令和3年11月末現在）

◇活動範囲：岩見沢市内全域

◇チームのメンバー：8人

（民生委員2人、元幼稚園教諭1人、家庭生活カウンセラー2人、チャイルドカウンセラー2人、調理師1人）

◇連携機関等：岩見沢市生涯学習センター「いわなび」

### 活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期     小学生     中学生     高校生以上  
の子供を持つ保護者・家庭

その他

### 活動場所

幼稚園     保育所     小学校     中学校     高等学校

社会教育施設     福祉施設     保健センター等     企業

家庭（訪問等）     オンライン     その他（                      ）



## アピールポイント！！（特色のある取組）

### 〔行政との連携〕

岩見沢市教育委員会 生涯学習・文化・スポーツ振興課 学習活動支援係と常に連絡を取り合いながら活動をしています。話し合いをするうちに、共同による企画・運営が決定することもあり、現在は、岩見沢市教育委員会の「家庭教育推進事業」の一貫として、母親向け事業の企画・運営を行っています。そのほか、岩見沢市教育委員会や北海道教育庁空知教育局が実施する家庭教育指導者研修会に参加することで、チーム全体の資質向上を図っています。

また、岩見沢市生涯学習センター内の親子学習室を拠点として活動しています。絨毯敷き、冷暖房完備で、隣には託児室もあります。親子学習室と託児室がガラスで仕切られているため、「家庭教育指導者活用講座」などでは、保護者は講座を受けながら子どもの様子を見ることができるといった環境となっています。

### 参加者（支援を受けた方）の声・感想

- 子どもの体調やリズムに合わせて都合の良い時間に来ることができて利用しやすいです。
- 今は多くが核家族ですから、三世代交流の役割も果たしていると思っています。

## その他の活動内容

### 「0歳児教育学級」

大型絵本の読み聞かせをしたり、親子でスキンシップが取れる遊びの紹介やキーボードの伴奏、手遊び歌などを実施しています。

### 「2・3歳児教育学級」

ボール遊びを行う講座を行いながら託児室での子ども達の見守りを実施しています。



### 「さあ来る」自主企画講座

### 「家庭教育指導者活用講座」

手で触れながら楽しめる布絵本の講座、親子で一緒に手作りができるおもちゃの講座、子ども連れでクラシック音楽を聴ける子育てミニコンサート、読み聞かせのための絵本講座等を実施しています。

保護者が気軽に相談やおしゃべりをする、子育て懇談「しゃべり場」も開催しています。メンバーがファシリテーターとして、保護者の皆さんの話をリードしながら進めています。

## 成果と今後の展望

### 〔成果〕

「家庭教育指導者活用講座」や「家庭教育なんでも相談」事後アンケートに「育児に対する理解が深まった」、「悩みや不安が解消された」といった感想が寄せられています。今後も、行政と連携して、保護者のニーズに応じて役に立てる事業を企画・運営するとともに、保護者の皆さんが笑顔で子育てができるように「日だまり」のような場を提供していきたいと思っています。

### 〔展望〕

子育てについて悩みや不安はあるけれど時間がない方など、必要な支援や情報を届けることができない保護者へのアプローチの仕方を考え、一層身近な存在として地域の子育てを支えていきたいと思っています。そのためにメンバーを増やし、活動を継続していきたいと考えています。

# 横浜町家庭教育支援チーム



(子育て応援推進委員会)



豆まき会の様子

私たち横浜町家庭教育支援チーム（子育て応援推進委員会）は、2009年から活動しています。対象は横浜町の子育て世帯で、幼児期から小学校までの家庭教育支援、子育て支援を目的としています。元保育士や子育て経験者を子育て応援推進委員とし、日常的に保護者の子育てに対するお悩み相談や幼児と一緒に楽しめる場（おひさまルーム）の運営を行っています。その他、年2回、子育て応援推進委員が小学生のいる全家庭への個別家庭訪問を実施しています。

## 青森県横浜町の紹介

人口：4,321人 世帯数：2,106世帯（令和3年12月現在）  
（保育園2、幼稚園1、小学校1、中学校1）

横浜町は下北半島の付け根に位置する小さな町ですが、5月に咲く菜の花が有名で、ホタテ養殖や馬鈴薯（ジャガイモ）などの栽培が盛んな町です。国道沿いにある道の駅よこはま菜の花プラザは下北半島への入り口として、菜の花の季節には、多くのお客で賑わいを見せます。



- 活動拠点：青森県横浜町
- 活動範囲：町内全域
- 活動開始年月：2009年7月
- チーム構成員：8人（元保育士4人、子育て経験者4人）
- 連携機関等：町役場、小学校、児童センター



- 活動対象：乳幼児から小学生までの子どもを持つ保護者  
その他子育て世帯（中・高校生含む）
- 活動場所：横浜町菜の花にこにこセンター
- 主な活動内容：おひさまルーム（イベントの開催、相談対応）  
個別家庭訪問（アウトリーチ型支援）



## ■活動の詳細

おひさまルーム…親子が気軽に訪れ、子どもとのふれ合いを楽しむほか、親子で参加できるイベントを季節毎に開催しています。平日は、毎日開設し、子育て応援推進委員が常駐しているため、子育てに関するお悩み相談も常時受け付けています。



推進委員による絵本の読み聞かせの様子

### 【おひさまルームイベント（例）】

- ・身長体重測定
- ・ベビーマッサージ
- ・こどもの日のお祝い会
- ・クリスマス会
- ・豆まき会
- ・ひなまつり会
- ・みらいC a f e など



個別家庭訪問…小学生のいる全家庭を対象に年2回実施しています。子育て応援推進委員が受けた保護者の悩みや相談内容は、役場関係部局や小学校と情報共有し、予防的・早期対応型の支援に結びつけています。



おひさまルーム等で子どもが小さい時から面識のある子育て応援推進委員が家庭訪問を行っているため、保護者からは安心して受け入れられています。

## ■活動成果と今後の展望

これまで、おひさまルームの運営と個別家庭訪問を主な活動として行ってきました。「おひさまルーム」は、入園前の乳幼児を持つ保護者が子どもを遊ばせながら、子育て応援推進委員と話したり、イベントに参加しながら保護者同士の交流を深めたりするなど、子育ての「息抜きの場」にもなっています。

個別家庭訪問は、家庭訪問の結果を小学校や関係機関と共有し、連携しながら支援を進めることにより、地域全体で子どもを見守る体制づくりの一翼を担ってきました。

今後も、子育て応援推進委員の人材確保を行い、事業を継続するとともに、横浜町の子育て世帯のニーズに合わせた活動を続けていきます。



特定非営利活動法人

# ふれあいステーション・あい

出会い・ふれあい・支えあい・助けあいの、まちづくり・ひとづくり・仕事づくり・住まいづくりを通して、いつまでも自分らしく、安心して暮らせるようなシステムとネットワークの構築を目指しています。世代を超え、連携し協力し合える地域づくりを目指した事業を実施しています。

**活動開始年月日** 2003年12月

**活動拠点** 岩手県宮古市：人口49,348人（2021年12月1日現在）

**活動範囲** 宮古市内全域

**チームのメンバー** 63人

**連携機関** 市こども課／市保健センター／市社会福祉協議会／  
地域子育て支援拠点

宮古市は  
本州最東端！  
三陸海岸が  
あります



**活動対象**  妊婦とその家族  
 乳幼児期  小学生  中学生  高校生以上  
 その他（ ） の子供を持つ保護者・家庭

**活動場所**  幼稚園  保育所  小学校  中学校  高等学校  
 社会教育施設  福祉施設  保健センター等  企業  
 家庭（訪問等）  オンライン  その他（児童館、宮古市ファミサポ®）

## 沿革

- 2003年 9月 ふれあいステーション・あい設立
- 12月 特定非営利活動法人の認証を受ける
- 2004年 2月 法人独自の一時託児と宅老所を開始  
★子どもから高齢者まで一緒に過ごす家庭のような環境でお子さんをお預かりするなど、【誰もが自分らしく過ごせる居場所】を目指す
- 4月 介護保険事業のデイサービスと居宅介護支援事業所を開始
- 2006年 6月 宮古市ファミリーサポートセンター運営事業の委託を受け運営開始  
★一時託児をファミリーサポートセンターに移行
- 2007年12月 地域密着型サービス（小規模多機能型居宅介護事業）を開始
- 2008年 4月 市指定管理者となり宮古市重茂児童館の管理運営を開始
- 2015年 1月 家庭訪問型子育て支援ホームスタートを開始  
※2011年3月に介護保険事業のデイサービスと居宅介護支援事業所を廃止  
※2017年9月に宅老所を廃止

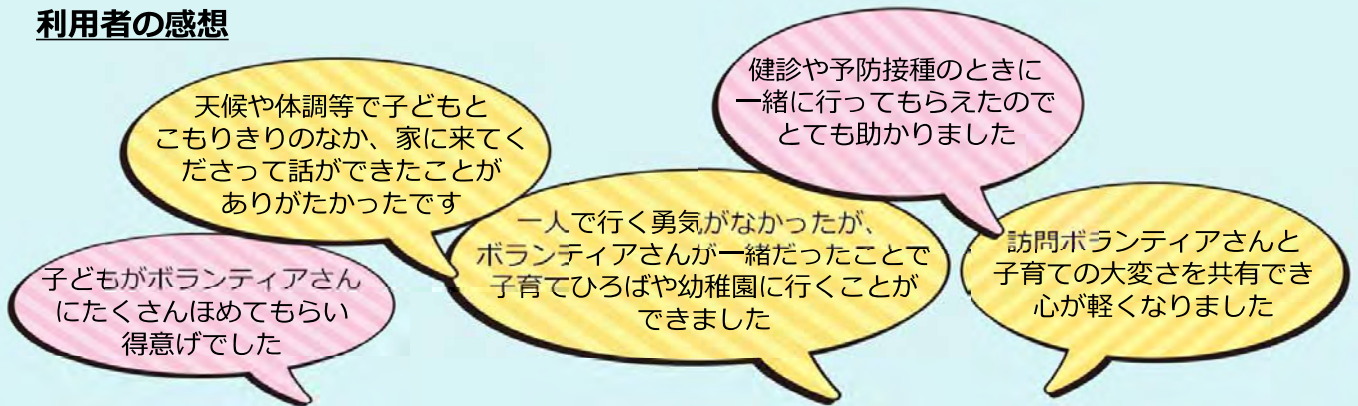


## アピールポイント!!

### ●家庭訪問型子育て支援 ホームスタート

近くに頼れる人がいない…子どもと一緒に外出するのが大変…子育てに困り感があるご家庭に研修を受けた子育て経験のあるボランティアさんが訪問します。お話を聴いたり、一緒に家事や育児をしながら過ごすことで、元気を取り戻してもらえるよう支援します。保護者が元気になることで、子どもの幸せな育ちに繋がります。

### 利用者の感想



## その他の活動内容

### ●ファミリーサポートセンターの運営

子育てを手助けしてほしい人と、子育てのお手伝いができる人を結ぶ、会員制の子育て支援ネットワークです。市から委託を受け運営しています。子育て中の家庭を地域で支えあいます。



### ●児童館の管理運営

満2歳から就学前の幼児を対象とした幼児保育と、小学1年生から6年生までの児童を対象とした学童保育の機能を併せ持った公設の児童館を、市の指定管理者として管理運営しています。



### ●小規模多機能型居宅介護事業

地域密着型サービスの事業所として運営しています。小・中学生のボランティアを受け入れたり、運動会を見学しに出かけたりと、地域の子どもたちとの交流を積極的に行っています。



### ●畑づくり・編み物教室

楽しみの場づくりとして実施しています。夏休みにはお子さんやお孫さんを連れて参加する方もいて、世代間交流の場にもなっています。



## 活動の成果と今後の展望

自主事業だけでなく、市の指定管理事業や委託事業を実施することにより市全域の子育て家庭と接する機会が得られました。その中で、困り感を持った家庭が多く、状況も様々であることがわかりました。これまでの支援では対応できないもどかしさを感じていたこともあって、ホームスタートの活動に踏み出すという選択をしました。利用された方々の表情が明るくなるのを見ると「思い切って始めて良かった」と思います。より気軽に相談できるよう電話やメールの他、LINEも導入しました。問い合わせだけでなく、支援終了後のフォローなども対応しやすくなりました。

今後は、子育てに悩む家庭が支援制度から取り残されないように、市や関係機関と連携を強めながら、訪問ボランティア養成とスキルアップの研修も充実させたいと計画しています。



## 能代市家庭教育支援チーム

# 「あそびのひろば・ぱれっと」



能代市家庭教育支援チーム「あそびのひろば・ぱれっと」は、地域の人々の中で子どもを育てることを目的に活動しています。

地域とのつながりが薄れていく中で、悩みや不安を抱えながら一人で子育てをしているお母さんに、息抜きを提供したり、一人一人の子どもに寄り添い、お母さんの悩みや不安に応えたりすることで、保護者の教育力を高めるための支援をしています。

### 活動の体制

- 活動拠点を置く市町村：能代市（人口48,950人（令和3年11月1日現在））
- 活動開始年月：2010年6月
- 活動拠点：秋田県能代市
- 活動範囲：能代市山本郡内全域（人口約75,000人）
- チームのメンバー：11人  
（子育てサポーター4人、元幼稚園教諭1人、民生委員2人、子育て中の親1人、子育て経験者3人）
- 連携機関等：小学校、社会教育施設、福祉施設



### 活動の対象

- 妊婦とその家族     乳幼児期     小学生
- 中学生     高校生以上の子どもをもつ保護者・家庭
- その他（孫をもつ祖父母）

### 活動場所

- 幼稚園     保育所     小学校     中学校     高等学校
- 社会教育施設     福祉施設     保健センター等     企業
- 家庭（訪問等）     オンライン



## 主な活動

### 「あそびのひろば」の開催

毎月1回、小さな子どもをもつお母さんたちが集まり、子どもと一緒に遊んだり食べたりおしゃべりをしたりする会です。絵本の読み聞かせや、体を動かす遊び、お母さんたちのコミュニケーション・ワークなどをします。

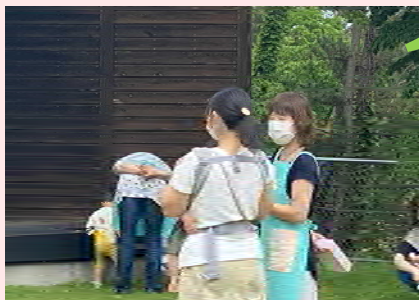
昼食はおにぎりのみ持参してもらい、豚汁など温かい汁物を季節に合わせて用意して一緒にテーブルを囲みます。個人的な相談活動も随時行っています。

#### 参加者の声

- ・家にばかりいると、遊ぶこと自体なかなか大変なので参加できてとても良かったです。
- ・自由にのびのびと過ごせるこの空間は、子どもにとっても私にとってもほっとひと息つける楽しい時間です。



季節の絵本紹介・本の読み聞かせ



母親との子育て悩み事相談



おしゃべりをしながら昼食会

## その他の活動内容

### 「出前ひろば」の開催

未就学児等を連れて学校祭を見に来た保護者に息抜きの場を提供するとともに、保護者対応に係る先生方の負担を軽減するために実施しています。



### 「ぱれっと通信」の発行

月1回、チームの活動の紹介と周知のため、活動の様子や次回の活動予告、育児への一言アドバイスを載せた通信を作成し、子育て支援センターや認定こども園等に配付しています。

### 子育てに関する講座の開催

#### ☆「インターネット安全利用講座」

インターネット利用の現代的な課題である「ネット利用の低年齢化」に対応した講座を、未就学児の保護者を対象に実施しました。保護者が知っておくべき、インターネット利用に関する知識を学んだり、インターネットを子育てに活用する方法やその注意について考えたりしました。

#### ☆「孫かて講座」

子どもたちのお世話をすることの多い祖父母に対して、祖父母と孫が一緒に楽しめる、年代別のおすすめの遊びやおもちゃづくりなどを紹介しました。

### 成果と今後の展望

子育てに不安感や閉塞感などを抱えていた母親から、「ママ友ができてうれしかった」「スタッフにお話を聞いてもらい悩み事が解消できた」などの声が寄せられ、母親が気軽に遊びに来たり、相談できたりする身近なチームになってきています。

県等が実施している研修会にチーム員が参加し、一人一人の子育てスキルがアップしてきており、ニーズに対応した様々な活動をこれまで以上に実施していきたいと考えています。

# 家庭教育応援・ボランティア活動団体

## アベルんち

絵本が大好きな仲間からスタートした「アベルんち」

みんなで集まって、絵本を中心にしながら、テーマに沿った話をします。そこから発展して、パステル講座、エコクラフト教室、トレッキング体験など、メンバーからの発信を大事にし、様々なことに挑戦し続けてきました。

そんな活動を通して、「お母さんが笑顔で元気であることが、家庭の笑顔と元気の元（素）となり、家庭の笑顔と元気が地域の笑顔と元気につながる」そう信じて進んできています。

アベルんちは、「つながり 出会い 発見」をキーワードに、これからも参加してくれるみなさん一人一人が笑顔になれるよう、交流の輪を広げていきます。

### チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2013年7月
- ◇活動拠点：山形県新庄市
- ◇活動範囲：最上地域全域
- ◇チームのメンバー：6人
- ◇連携機関等：健康福祉サポートかがやき  
アベルんち農園  
畑のハンモック



### 活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期  小学生  中学生  高校生以上  の子供を持つ保護者・家庭

### 活動場所

- 幼稚園  保育所  小学校  中学校  高等学校
- 社会教育施設  福祉施設  保健センター等  企業
- 家庭（訪問等）  オンライン  その他（代表者の自宅）

## 活動内容

### 「絵本de茶話会」

テーマに沿った絵本を紹介し合い、読み聞かせを通して参加者同士が交流を図っています。



### 「リースの会」

不登校や引きこもり、発達障がいなどで悩む子や、不安を抱える保護者の心の安定、交流、情報交換をする場として、定期的を開催しています。年に数回は、専門家を招き、直接話を聞くことができる機会を設けています。



#### 参加者の声・感想から

- ・みなさんと話をすることで、元気になりました。
- ・偶然の再会があってうれしかったです。
- ・新しいチャレンジができて楽しいです。

他にも、図書館や幼稚園、様々なイベントでの読み聞かせ活動、地域の子育て支援事業への協力など、様々な家庭教育支援活動に携わっています。

- ☆「最上地域みんなで子育て応援団」正会員
- ☆ 山形県教育委員会発行「みんなで支え合おう！不登校児童生徒の相談支援ガイド」に掲載
- ☆ 公式Facebookで情報の発信

### ワークショップ・お出かけツアー

写真講座、パステル講座、消しゴムはんこ講座など、参加者の興味・関心に沿ったワークショップを行っています。

講師は、アベルんちの運営スタッフや、繋がりのあるその道の先生が務め、おしゃべりに花を咲かせながらものづくりを楽しんでいます。

お出かけツアーは、本屋さんや地域の気になるスポットをみんなで見学します。



### 「イマール」

2021年12月より、どなたでもどうぞの「イマール」がスタートしました。「イマール」とは、「生きているだけでまるもうけ、生きているだけで丸」から生まれた名前です。何をしても良い、何もしなくても良い、いつもと違う場所（空間）でいつもと違う時間を過ごしていただく場所です。社会参加が苦手な方やその家族に、誰かと出会い、つながって、何かを発見してもらえ場所になってほしいと願っています。会場は、アトリエ・現代美術館、他です。月1回開催します。



## 成果と今後の展望

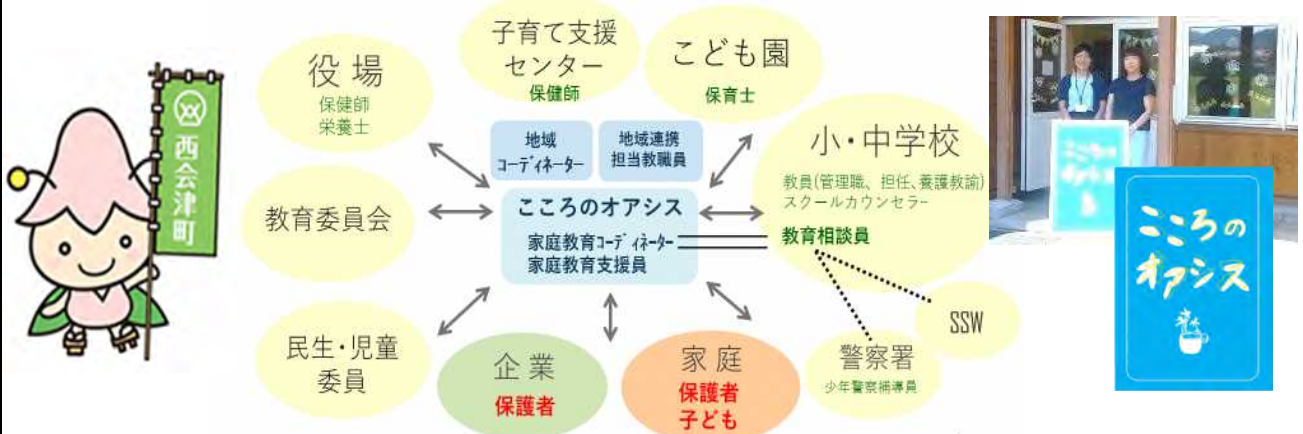
活動を通して、地域の人たちとのつながりが広がり、「子育てに悩んでいるけれど、どこに相談したらよいかわからない」という母親たちの窓口になっています。当初、少人数だった「リースの会」も、今では約20名が参加しています。

不登校の子や親御さんにつながるパイプができ、登校しなくても充実した時間と安心して過ごせる環境を保障する社会の実現を願いながら、活動を続けていきます。





# 西会津町家庭教育相談室 「こころのオアシス」



西会津小学校1階にある家庭教育相談室「こころのオアシス」では、子育てや家庭教育に関する悩みなどたくさんの保護者の皆様から相談をお受けしております。最近では、休み時間の子どもたちの居場所としての活用が増えてきており、令和3年度は4月から現在までのべ270名（子ども220名、大人50名）の方が、相談や面談（気軽なおしゃべりもOK）の目的でご利用になりました。

また、西会津小・中学校はもとより、こども園や子育て支援センター等の関係機関をつなぐハブ的な役割も果たしており、地域にとってなくてはならない存在となっています。

活動拠点を置く市町村

福島県耶麻郡西会津町

活動開始年月

2017年9月

活動範囲

西会津町内全域：人口5,859人（2021年11月1日現在）

構成員

2人（家庭教育コーディネーター1人、家庭教育支援員1人）

活動形態

保護者への学びの場の提供 地域の居場所づくり 訪問型家庭教育支援  
その他（学校生活でつまずきがちな子どもの居場所づくり）

活動対象

乳幼児 小学生（低学年） 小学生（中学年） 小学生（高学年）  
中学生 高校生以上 の子どもを持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

- 急激な社会環境の変化に伴い、家庭と地域、親同士のつながりが希薄になっていく中で、子育てに悩む保護者が不安を抱えたまま孤立しないよう、あらゆる相談に丁寧に応じ関係機関と緊密に連携しながら継続的に支援する。
- 家庭の教育力の向上を目指し、子育てに関する講座や親子で楽しめるイベントを通して、保護者目線の学習機会の提供に取り組む。
- 仕事で忙しい保護者に対して、就労先の企業を訪問し子育てに関する情報提供や相談室の周知に取り組む。

## 主な活動内容

### ☆気軽に入れる家庭教育相談室の運営☆

小学校内に設置された家庭教育相談室「こころのオアシス」において“じっくり聞いてしっかりつなげる”をモットーに児童・生徒や保護者、地域の方の相談に丁寧に応じ、関係機関と連携しながら相談者の不安解消や継続的な支援につなげています。



### ☆保護者への学習機会の提供☆

家庭教育講座や小学校見学ツアーを開催し、保護者への情報提供を行っています。



### ☆親子参加型イベントの企画運営☆

親子で楽しめる音楽コンサートや親子フリーマーケットを開催しています。



### ☆企業訪問☆

仕事で忙しい保護者の就労先に出向き、子育てに役立つ出前講座の開催や相談室のPRを実施しています。



### ☆食育活動☆

町と連携して「レシピコンテスト」を開催しています。また、家庭における食生活習慣の改善に向け、小中学校の養護教諭・栄養教諭と定期的に会議を行い、子どもたちへの指導をはじめ、保護者の方にも町のケーブルテレビや動画サイトを活用するなど啓発に努めています。



### 活動の成果と今後の展望

- 悩みや不安を抱えた保護者が立ち寄りやすく地域に根差した親しみやすい相談室として定着しつつあり、相談室が情報共有の場となることで、関係者同士の連携がより円滑になり、課題解決につながっています。
- 学校生活でつまずきがちな子どもの居場所としても活用されています。
- 多くの家庭において笑顔で子育てができるよう、家族に寄り添った支援活動を積極的に行うことで相談者の課題解決につながり、家庭や地域の教育力の向上に寄与しています。
- 保護者目線の学習機会の提供や、様々なイベントの企画運営を通して、家庭教育への関心や支援の輪が広まる活動に寄与しています。
- 子どもたちの食生活や生活習慣の改善に向けて、小中学校の養護教諭や栄養教諭と連携をさらに強めます。

# 五霞町家庭教育支援チーム

ごかまち かていきょういくしえんちーむ

令和元年度に発足した五霞町家庭教育支援チームは、子育て経験者で、読み聞かせや地域で様々なボランティアなどの活動をしている家庭教育支援員と教育委員会生涯学習グループの事務局で構成しています。

主な活動は、次年度小学校に入学する子をもつ全ての家庭を訪問して、小学校入学に向けての相談対応や情報提供、絵本のプレゼントをしています。

また、五霞町に誕生した全ての赤ちゃんと保護者に絵本の読み聞かせや絵本のプレゼントをするブックスタート事業にも取り組んでいます。

子育てに悩みを抱える保護者や相談できる人が近くにいなくて孤立しがちな保護者等に寄り添いながら温かな関わりを続け、子どもたちの健やかな成長を見守っています。



【五霞町家庭教育支援チーム】

## チーム・活動の体制

◇活動開始年月：令和元年（2019年）11月

◇活動拠点：茨城県五霞町

◇活動範囲：町内全域（人口約8,300人）

◇チームのメンバー：13人

家庭教育支援員9人（元教員1人，元保育士2人，主任児童委員2人，元児童館館長1人，子育て経験者3人）

町教育委員会事務局4人

◇連携機関等：幼児教育施設，小学校，公民館，保健センター

五霞町イメージキャラクター  
「ごかりん」



## 活動の対象

妊婦とその家族

■ 乳幼児期

■ 小学生

■ 中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他（ ）

## 活動場所

幼稚園

保育所

小学校

■ 中学校

高等学校

■ 社会教育施設

福祉施設

■ 保健センター

企業

■ 家庭（訪問等）

オンライン

その他（ ）



# 訪問型家庭教育支援～就学前の全戸訪問からつなぐ～

## 【就学前の全戸訪問の目的】

- ・家庭教育と保幼小接続の一体的な推進
- ・課題（困り感）のある家庭の早期発見
- ・家庭教育支援体制の構築→保護者への支援を通して子どもの育ちと主体的な学びを支える

### 説明・調整

- ・就学时健診時の講話と説明
- ・アンケート実施
- ・訪問日程調整確認

### 家庭訪問

- ・アンケートをもとにした情報提供
- ・町や県が作成した家庭教育支援資料の配付
- ・入学お祝い「絵本」のプレゼント
- ・傾聴を基本とした家庭教育支援員による相談対応
- ・気軽に相談しやすい地域のお母さんの役割

### つなぐ

幼児教育施設  
小学校へ

継続支援へ

関係機関へ

### 全戸訪問の3年間の実績

- ・令和元年度 74件
- ・令和2年度 42件
- ・令和3年度 52件
- 合計 168件
- ※3年間 100%面会
- ※継続支援 7件  
(保護者の希望3件+  
配慮を要する家庭4件)

### 支援を受けた方の声・感想

- ・入学前の心構えとなり、小学校への気持ちの切替えができました。
- ・心配だらけで涙ながらにお話しさせていただきましたが、不安に思っていることを聞いていただき心が軽くなりました。
- ・外での短い時間でしたが、色々細かいことを聞いていただきよかったです。とても話しやすい方々だったのでたくさん話してしまいました。



## ブックスタート事業 保健福祉部局との連携

五霞町ブックスタートは、令和3年度からよちよち相談（7から9ヶ月の赤ちゃんと保護者）時の機会に始めました。家庭教育支援員が、絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントしています。抱っこぬくもりの中で絵本を読んでもらう心地よさや嬉しさを「すべての赤ちゃん」に届けています。ここでの家庭教育支援員と保護者の関わりが、就学前の全戸訪問へとつながり、保護者へ安心感や親近感を与え、相談しやすいゆるやかな関係が築けています。



## 成果と今後の展望

- ・**全戸訪問**→就学前の親子の関わりや幼児教育と小学校教育とのつながりへの理解、困ったときに気軽に相談できる場所があることの周知、保幼小の円滑な接続のための情報提供につなげている。
- ・**継続支援**→課題（困り感）のある家庭を小学校入学後も継続支援することで保護者の学校への不満や不安を軽減し、子どもの学習環境の改善につなげている。
- ・**ブックスタート**→母子保健（健診受診率の向上）、子育て支援（読み聞かせの大切さへの理解）につなげている。

学校・園・家庭・地域から信頼される取組みを継続していくことで、安心して子育てできるまちづくりの一助となり、子どもの健やかな成長を支えていきたい。

# 県東親育ちスマイルネット

「県東親育ちスマイルネット」は、2007年に設立し、栃木県の県東部に7つの支部をおき、「親学習プログラム」等を活用した親同士のつながり（友達・仲間）づくりを目的に活動しています。

子育ての心配事や悩みについて、ワークショップを通して楽しく学び合い、子育てに必要な知識やスキルを身に付けることができるよう支援しています。

## ☆設置支部

真岡支部・二宮支部  
益子支部・茂木支部・市貝支部・芳賀支部  
那珂川支部

## ☆活動範囲

芳賀地区（真岡市・益子町・茂木町・市貝町・芳賀町）  
南那須地区（那珂川町）

## ☆会員

在籍数 61名

※栃木県教育委員会主催「家庭教育支援プログラム指導者研修」の修了生、または、それに準ずる者をもって構成している。県との共催によるフォローアップ研修会を毎年実施し、スキルアップの機会を設けている。



【R3年度 家庭教育支援プログラム（親学習プログラム）指導者のフォローアップ研修会の様子】

## ☆活動の対象

- 乳幼児期
- 小学生
- 中学生
- 高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭



## ☆活動場所

- 幼稚園
- 保育所
- 小学校
- 中学校
- 高等学校





## ○主な活動内容（ワークショップによる学びの場の提供）

### ☆就学時健診における親学習

「わが子自慢」・「わが子との思い出」・「入学前のあれこれ」・「早寝早起き朝ご飯の習慣」等について語り合い、これからはじまる小学校生活に向けて希望が持てるような支援を行う。「親学習プログラム」のエピソード等を活用し、互いの考えを共有する。また、気軽に相談したり話をしたりすることのできる友達・仲間づくりの場を提供する。



#### 参加者（保護者）の声・感想

知らない方とも打ち解け、いろいろな意見が聞けてよかったです。共感できたことがたくさんありました。そして、人生の先輩であるスマイルネットの皆様の愛情を感じました。

### ☆幼・保・小における家庭教育学級・子育て講座

「子育ておしゃべり会」を実施し、身近な話題や子育ての課題、悩み等をおしゃべりしながら互いに知恵を出し合い楽しく学ぶ機会を提供する。

小学1年生の保護者を対象に「読み聞かせ体験」を実施し、子どもの心を育てる本との出会いについて考える場を提供する。

「思春期の子どもの対応について考える」など、身近な出来事をもとにし、家庭や地域の実情に合ったプログラムを展開する。



#### 参加者（保護者）の声・感想

大人になって読んでもらう体験をしたことがなかったので、お話を聞く子どもの立場で本を楽しめました。学んだことを生かして子どもに本を読んであげたいです。

## ○その他の活動内容

### ☆高等学校における親学習

高等学校（総合学科）において、外部講師として活動。

「未来の親となる高校生向け親学習プログラム」を展開する。シトラスリボンづくりの講習を通して、子どもを取り巻く環境や誹謗中傷・偏見のない社会づくりについて考える場を提供する。



#### 参加者（高校生）の声・感想

新型コロナウイルス感染症による差別・誹謗中傷・死への恐怖や不安などについて考え、これまでの自分の考えを見直すことができてよかったです。

## ○成果と今後の展望

子育て世代の方々は、親同士が子育ての悩みや不安について語り合い、和やかに学び合える場を必要としている。今後も一人で悩んだり、一人で抱え込んだりせず、明るい笑顔のある子育てができるよう、学びの場を提供し、子育ての応援をしていきたい。

また、「未来の親となる高校生」に向けて親学習を広め、子育てに望ましい環境づくりや、安心して子育てができる地域づくりについて考える機会を増やしていきたい。

## 安中市家庭教育支援チーム



# ビーイング

NPO法人  
ビーイング

### 🌱 ビーイングとは

地域の中には、様々な要因により学校に行けなくなったり、そのまま進路が決まらずひきこもり状態になってしまったりしている方がいるという現実があります。ビーイングは、このような方々の《外に出ていくきっかけ作りのお手伝い》ができないのかという思いから、発足したグループです。私たちは、地域にお住いの自力では解決できない困難を抱えているご本人、ご家族と一緒に、今、何ができるのかを考え、伴走しながら社会復帰につながるお手伝いをしています。

### 🌱 チーム・活動の体制

- ◆活動開始年月：2015年6月
- ◆活動拠点：群馬県安中市
- ◆活動範囲：市内全域（人口約5.5万人）、富岡市（2021年6月から本格化）  
渋川市（2020年9月から活動展開）
- ◆チームのメンバー：13人  
〔不登校・ひきこもり担当4人、民生児童委員1人、元主任児童委員1人〕  
〔元学童クラブ指導員2人、社会福祉士1人、子育て経験者4人〕
- ◆連携機関等：安中市役所福祉課、子ども課、社会福祉協議会  
ひきこもり支援センター、若者サポートセンター、小学校  
中学校、高等学校、適応指導教室、発達障害者支援センター等

### 🌱 活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期     小学生     中学生     高校生以上  
の子供を持つ保護者・家庭
- その他（市民）

### 🌱 活動場所

- 幼稚園     保育所     小学校     中学校     高等学校
- 社会教育施設     福祉施設     保健センター等     企業
- 家庭（訪問等）     オンライン     その他（コミュニティハウス）



## 🌿 活動内容



個別相談

### ★訪問支援 (アウトリーチ)

当事者本人及びその家族に寄り添い、信頼関係を構築しながら、支援機関の紹介や外出を促します。

### ビーイングでは

地域の人々が地域を支えることをコンセプトに、3市在住の地域メンバーが支援にあたります。毎月講師を招き、心理・地域福祉等の勉強をしています。

### ★居場所の提供

自宅以外の安心・安全な場所を地域内に確保し、定期的に提供を行っています。市民にも広く開放し交流の場とします。  
(コミュニティーハウス)

### 一人一人に 寄り添った支援

### ★社会参加のための 自立支援

ハッピーファーム（農園）での作業や収穫した野菜を使ってのランチづくり、ボランティア活動等を通して、就学・就労を目標とした支援を行っています。

### ★家族会の運営

家族の方を対象に、家族会、家族セミナー、交流会を企画・運営し、同じ悩みを抱える複数家族のつながり深め、情報提供を促します。



ハッピーファームでの作業

### ★講座等の開催

生活に生かせるカウンセリング講座、講演会、ペアレントトレーニング講座等も行っています。  
(市民対象)

### 地域・社会へと つなげていきます

### 《参加者の声》

ビーイングの皆さんと話す元気になり、支えてもらっています。信頼できるスタッフの方々に相談できるのは、娘にとっても心強いことと思います。ボランティアでここまでしてくださるとは！

扉を開けてくれたビーイングに感謝の気持ちです。毎朝、送り出す娘の姿を見て、やっとここまで来られたという思いです。

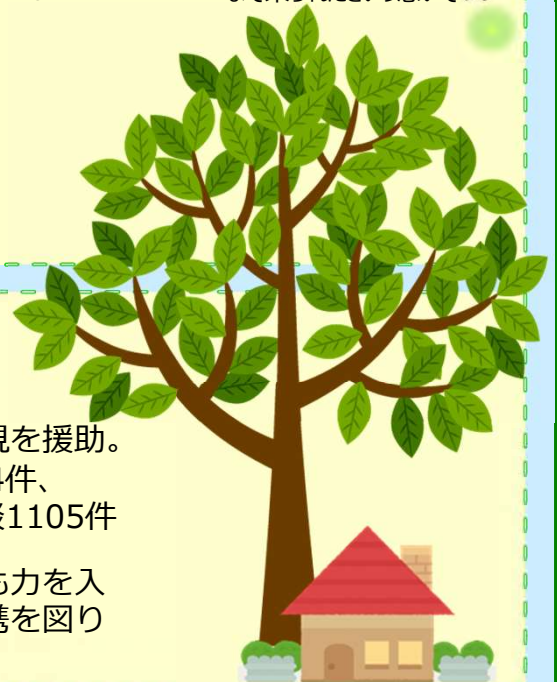
## 「大きな樹の下の みんなのおうち」 OPEN

令和3年10月、コミュニティーハウスとカフェ棟がオープンしました。カフェ棟は、ひきこもりや不登校の方々が社会参加に向けて経験を積む場にするため厨房も設けました。



## 🌿 成果と今後の展望

- ◆当事者及びその家族に対して、一人一人に寄り添った伴走型支援を行い、地域社会における当事者の自己実現を援助。
- ◆令和2年度の実績・・・家庭訪問117件、居場所の利用114件、相談111件、電話・メールでの相談1105件
- ◆今後は、カフェの運営を中心とした就労プログラムにも力を入れていきたいと考えています。専門・関係機関との連携を図りながら、粘り強く支援を続けていきます。



# NPO法人羽生子育てサポート



# キャロット



キャロットは自然豊かな羽生市周辺の、すべての子どもたちが、いのちいっぱい輝かせて成長できることを願って、地域ぐるみでご家庭をサポートする目的で設立された団体です。

活動で大切にしていることは、親と親がつながること、食を通して命がつながること、子どもが自然とつながること、学習を通して未来とつながること、地域の大人と子どもがつながることです。

## チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2013年4月
- ◇活動拠点：埼玉県羽生市
- ◇活動範囲：市内全域（人口約54,000人）
- ◇チームのメンバー：25人  
（家庭教育アドバイザー7人、家庭学習アドバイザー6人、元教員9人、元保育士3人、元学校相談員3人、ネットアドバイザー1人、元銀行員1人、人形劇・読み聞かせボランティア4人、民生児童委員など）
- ◇連携機関等：生涯学習課、社会福祉課、子育て支援課、社会福祉協議会、公民館、小学校、中学校

## 活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期

小学生

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他（ ）

## 活動場所

幼稚園

保育所

小学校

中学校

高等学校

社会教育施設

福祉施設

保健センター等

企業

家庭（訪問等）

オンライン

その他（ ）



## アピールポイント！！

## 学習支援「ういんぐ」

生活困窮家庭等の小学生から高校生を対象として毎週土曜日に学習支援をしています。一人ひとりに寄り添いながら個別学習を行い、子どもの居場所にもなっています。

- 子ども一人ひとりの発達状況に合わせた学習を行い自己肯定感を育てています。
- 中学生の受験対策を12月から2月まで毎週日曜日に行っています。
- 学期に1回、食を通して生きる力を身につける為に調理実習を行います。
- 保護者、子ども達を対象として元教育相談員が相談支援を行っています。
- 「ういんぐ」に登録されている家庭に家庭訪問支援を行っています。



家に帰ってママと一緒に作ろう

## その他の活動内容

### キャロットひろば

- ・乳幼児の親子を対象として野菜収穫体験を年2回開催しています。
- ・公民館で、七夕お話し会・クリスマスお話し会を開催し親子で季節の物を工作したり、紙芝居・大きな絵本の読み聞かせを行っています。



### 親の学習

- ・就学時健診、中学校の入学説明会時保護者を対象に、家庭教育アドバイザー自作のプログラムで「親の学習」講座を行っています。



### クールシェア&ウォームシェア

- ・小学生を対象として、夏休み、冬休みに宿題などの学習、体験学習、科学あそびをしたり、手作り弁当も提供しています。



### 託児

- ・「親の学習」時又は市の講座にて託児依頼時に行っています。

### フードパントリーキャロット

- ・一人親家庭を対象として食料支援を奇数月に開催しています。



フードパントリーの皆様へ定期的に開催頂きありがとうございます。野菜や希病品(保存品)がある時も助かります。コロナ禍の皆様温かいご支援が続きたいです。これからもよろしくお願い致します。

## 成果と今後の展望

- 「成果」
- キャロットひろばでは地産地消の野菜収穫体験をしたり、食育を重視して採りたての新鮮野菜ランチを提供することにより、野菜そのものの味を体感でき、親子の笑顔と感謝の言葉をいただきました。
  - 親の学習では、チームで取組み、アドバイザー自身も孤立せず仲間と共に支援ができた。毎年800人以上の保護者と関わり、アンケート結果でも90%以上「よかった」との感想をいただきました。
  - 子ども達の学習支援を通して、ひとり親家庭など、過酷な状況の中でも仕事と子育てをがんばっている親とつながり、関係を深めることができました。

### 「今後の展望」

- 関係機関とより一層連携し、孤立しがちな親へ一人ひとりに寄り添った活動を行っていきたい。



# チームで取り組む家庭教育支援案プランの実践

## 1 「案プラン①」 保護者への学びの場の提供

※ **I I K S**（イクス：案町合同家庭教育学級・イキイキ子育てスクール）の開催

親等が家庭で子どもの教育を行う時に必要な心構えや留意点などを学習する機会を提供し、家庭教育の充実を図りながら、子ども達の健やかな成長に資すること、及び学級生自身の向上と学級生同士の親睦を目的としています。



参加者の声  
子どもは自分が認められることで他人にも優しくなれる。親に余裕がないと子どもを受け止めることができない。「6秒待つて」実感しました。

## 2 「案プラン②」 地域の居場所づくり

※ **家庭教育相談窓口**の設置

教育講演会「体罰によらない子育てを広げよう！」

核家族化、ひとり親家族、地域のつながりの希薄化に伴い、家庭教育に関する相談、困りごとについての相談を受ける受け皿です。しつけ、不登校、ゲーム、勉強など様々な課題を抱え込み、孤立化する家庭に対し、一人で抱え込まず、まずは相談を！

## 3 「案プラン③」 訪問型家庭教育支援<重点目標>

※ **アウトリーチ型家庭教育支援**

学びの場や相談に足を運ばない保護者、家庭教育に関する支援が届きにくい家庭への対応支援策です。

### ① **ターゲット型家庭教育支援**（「点」の支援）

具体的な課題を抱える家庭を訪問の対象とする

### ② **ダイヤルベルト型家庭教育支援**（「電話型帯」の支援）

対象年齢（新小学校1年生）の家庭には、問題の未然防止、早期発見につながる。就学時健診等での家庭教育アンケートのスクリーニングを経て当該家庭へアプローチ→<電話・家庭訪問>。問題はあがるが自覚がない家庭、悩みがあるが相談できない家庭への対応！

## 取り組みの成果

- 1 チームとして連携して活動  
情報共有、学校等からの相談により個別案件への迅速対応
- 2 学びの場の提供  
親同士の交流、悩みや疑問を共有しながら学び合い、親として共感
- 3 地域の居場所づくり  
顔の見える教育相談、抱え込まず地域とのつながり
- 4 訪問型家庭教育支援  
ターゲット型家庭教育支援  
：見守り声かけ、切れ目のない支援  
ダイヤルベルト型家庭教育支援  
：積極的な声かけ、学校不適應の未然防止

## 今後の展望

- 幼稚園や保健福祉部局との連携  
⇒就学前児家庭の支援  
⇒幼児教育との連携
- アウトリーチ型家庭支援の推進  
⇒外国人家庭、ひとり親家庭、義務教育終了後家庭への対応  
⇒ターゲット型・ベルト型家庭教育支援の充実  
⇒SC、SSWとの連携
- ICTの活用  
⇒積極的な情報提供、双方向での情報のやり取り・相談



# 十日町市家庭教育支援チーム なかよしランド

「なかよしランド」は未就園児の親子を対象に、手遊びやリズム遊び、体を思いっきり動かすなど、親子でたっぷりと触れ合う活動を通して、親子の関係性を築く手助けをしています。普段の生活やおもちゃ遊びでは体験できない親子のふれあい、就園前の様々な体験、季節の行事や人との関わりを大切に活動をしています。

設立当初から、広い場所で、大人も子どもも伸び伸びと動き回り、ふれあいを楽しむことを大きな目的としてきました。育児に追われる日々から少しでも心と体を解放してほしい、そんな願いの中、遊び歌や体操などを織り交ぜながら支援活動を行っています。

<ねらい>

- ◎親子のふれあいの方法を実践を通して身に付ける
- ◎子育て喜びや悩みを分かち合える場作りをすすめる

入園前の貴重な時間を親と子が共に過ごし、共に育つ喜びを感じていただきたいと願っています。



## 活動開始年月

平成元（1989）年4月



## 活動拠点と範囲

新潟県十日町市  
人口：50,238人（令和3月11月末現在）

## チームメンバー

6人  
（子育て経験者3人、元保育士2人、  
元幼稚園教諭1人）

その他、スポーツインストラクターや、音楽講師など専門の講師をお招きし、運動遊びや音楽会、リトミックなどを行っています。

## 活動対象

未就園児とその保護者

## 活動場所

児童厚生施設、社会教育施設、福祉施設 ほか



## ■アピールポイント!!

\*\*\*「毎週」と「繰り返し」\*\*\*

なかよしランドは、8月を除く毎週1回、年間を通じて活動をしています。  
“はじまりの行進”、“親子でふれあう遊び歌体操”、“かけっこ”、…これらは毎回必ず行う、なかよしランドの代表的な遊びです。  
お子さんの変化を感じていただけるように毎回繰り返し行っています。

手遊び・  
リズム遊び



歌・  
踊り・体操



パネシアター・  
読み聞かせ



工作



## ■その他の活動内容

お誕生日会

運動会

バス遠足

電車遠足

なかよしのなべ

リトミック

水遊び

端午の節句

たなばた

ハロウィン

クリスマス

お正月

節分

ひなまつり

## ■参加者の声■

- \* 県外から移住し、知り合いも少ない中での子育てで不安もたくさんありました。スタッフの方々が声を掛けてくれたり、ふとした瞬間に子育てのアドバイスを頂いたりして、一緒に子どもの成長を見守ってもらえているようでうれしかったです。
- \* 初めは抱っこばかりで、なかなか一緒に参加できませんでしたが、先輩ママから「うちもそうだったよ～」と声をかけてもらい、気長に参加することにしました。そのうち自分から走ったり、歌や手遊びを真似したり…と生き生きと活動するようになりました。
- \* 遊び歌の中で「大好き～♡」とハグをすると、息子も私にもこにこ顔です。教えてもらった歌を我が家は家族みんなで楽しんでいます。

## ■活動の成果と今後の展望

- \* 参加者同士が顔を合わせていく中で、子ども同士・保護者同士の交流が生まれ、子ども達は様々な経験を通して付き合い方を学び、保護者は子育てについて語り合う仲間ができ、友達の輪が広がっています。
- \* 乳幼児（弟妹）連れで参加する親子がいる時は、支援スタッフが下の子の面倒をみることで、その時間は思いっきり親に甘え、一緒に遊ぶことができ、親と子のふれあう時間をつくる一助となっています。
- \* 今後は、専門分野の講師を招く機会を増やしたり、保育を志す学生から一部を担ってもらい、子どもとの関わり方やコミュニケーションを学ぶ仕組みづくりをしたいと考えています。



# 野々市市家庭教育サポーター

野々市市家庭教育サポーターは、家庭教育に関する地域の支援体制として設立され、市内全域で活動をしている団体です。

子育ては楽しいことや嬉しいこともあるけれど、時にはつらかったり、大変だったり、子どもとの関わり方に迷ったりする事もあります。そんなときに、子育て世代の身近で気軽な相談相手として、気楽におしゃべりしながら、日ごろの悩みや子育てのストレスを少しでも解消してもらえればと活動しています。

2か月に1回定例会を実施し、情報共有や研修を行うことで、相談活動におけるスキルアップを目指しています。また、隔年で家庭教育サポーター養成講座を行い、サポーターの安定的な確保にも努めており、今年度は第7期生の養成講座を実施しております。

また、家庭教育サポーターから派生して、Webサイトで子育て情報発信の運営をしております。

メンバーの年齢は30～70代と幅広いですが、子育て世帯からの認知度も高く、「自分の住むまちには、子育てのことで頼れる人がいるんだ!」と認めていただけるような存在を目指して日々活動をしています。

## 活動の体制

- ◇活動開始年月：2007年4月
- ◇活動拠点：石川県野々市市（人口57,238人※令和2年国勢調査より）
- ◇活動範囲：市内全域
- ◇メンバー：21名（家庭教育サポーター養成講座修了者）



## 活動の対象

- 子どもを持つ保護者・家庭

## 主な活動場所

- 保育所
- こども園





## 特色のある取組

### 〈なかよしの日 相談活動〉

市内保育園の園開放事業「なかよしの日」(各園年5回)に担当サポーター2、3名が出向き、相談活動を行っています。今年度はコロナ禍の中、安全対策として市内保育園 17 園のうち 12 園の園開放事業で相談活動を行っています。2007 年4月にはじまり、今年で 15 年目になる活動であるため、子育て世代の市民からの認知度は高くなっています。

未就園児親子が参加される園開放事業に直接サポーターが出向くことで、気軽に話しながら相談できる環境をつくっています。リピーターの親子や様々な保育園に遊びに来ている親子もおり、顔見知りになることで話しやすい関係性を築いています。また、園からも、保育士の負担が減り助かっていると評価されています。

## その他の活動内容

### 〈なかよし子育て大集合！〉

年に一度、親子ふれあい事業「なかよし子育て大集合！」というイベントを開催し、親子で遊ぶことができるコーナーや、事前に市民に呼びかけて集めた子育て不用品を無料で次の世帯にお渡しするコーナー等を設け、家庭教育の支援を行っています。

10 年以上にわたり実施しており、市民からのイベントの認知度も高くなっています。そのなかでも、子育て用品の無償リサイクルは人気が高くなっています。地域全体で循環させる仕組みができており、子育てを終えた家庭や、子育て中の家庭から毎年たくさんの物品が集まります。遊び場の提供だけでなく、子育て家庭を支援するイベントとなっています。

### 〈家庭教育指針「ののいち元気家族三か条」啓発〉

家庭教育指針の啓発を行うため、過去作成した DVD や紙芝居を用いて啓発活動をしており、市民に向けて家庭教育の大切さを伝えています。



## 成果と今後の展望

地域の現状を常に把握できるように情報共有や勉強を重ね、ニーズに合わせた活動ができています。また、地域を巻き込んだ活動も実施しているため、子育て世帯以外の市民からの認知度も高く、サポーター活動に興味を持っていただいています。

今後の展望としては、より一層、市民のニーズに合わせた活動を行っていきたいと考えています。

## 【家庭教育支援チーム オレンジサポーターズ】

- ・平成20年度から活動をはじめ、地域の保護者・祖父母等が気軽に相談できる「ちょこつと相談」をモットーに、地域に密着した地道な相談活動を続けている。また、2年前からは、LINEを活用した相談活動も取り入れたことにより、特にコロナ禍において、対面での相談活動が難しい時期でも、継続的に相談活動を行うことができた。
- ・核家族化、少子化が進み、家庭と地域との連帯感が希薄になり、子育ての悩みを抱えたまま保護者が孤立してしまう傾向がみられる現代において、地区公民館を拠点に、未就学児とその保護者の交流の場として、子育てサロンの「オレンジサロン」を定期的を開催し、継続して地域の親同士の仲間づくりに努めている。
- ・活動拠点地区の小中学校との連絡会の実施、地域の企業に対する赤ちゃん抱っこ体験への協力依頼等、保護者への働きかけだけでなく、企業や学校等、地域全体に向けての取り組みを行っている。

### チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2008年9月
- ◇活動拠点：福井県越前市武生南地区
- ◇活動範囲：市内全域（人口約8万人）
- ◇チームのメンバー：6人  
（子育てサポーター2人（うち元保育士1人）、主任児童委員3人（うち元教員1人）、県子育てマイスター1人（元幼稚園教諭））
- ◇連携機関等：幼稚園、保育園、認定こども園、小学校、中学校、公民館、企業  
市子ども・子育て相談室、市健康増進課 等

### 活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期      小学生      中学生      高校生以上  
の子供を持つ保護者・家庭
- その他（                      ）

### 活動場所

- 幼稚園      保育所      小学校      中学校      高等学校
- 社会教育施設      福祉施設      保健センター等      企業
- 家庭（訪問等）      オンライン      その他（                      ）

## アピールポイント！！～赤ちゃん抱っこ隊～

「赤ちゃん抱っこ隊」として、市内全中学校で実施されている、「命のぬくもり体験学習・赤ちゃん抱っこ体験」のサポートを行っている。この活動は、平成30年から現在に至るまで、越前市健康増進課委託事業となっており、学校や行政と連携しながら、子どもたちの心の成長のために活動している。

赤ちゃん抱っこ隊としての主な活動内容は、継続できる体験学習とするために、赤ちゃん抱っこ体験に参加してもらうことができる親子の募集、企業への協力依頼、当日体験する生徒と親子の橋渡し役、母親との信頼性の構築、母親が育児に自信を持つ機会の提供等、赤ちゃんを中心に誰もが笑顔になる場のサポートを行っている。



参加者（支援を受けた方）の声・感想  
・「赤ちゃんの可愛さや、親が子どもを大切に思う気持ちを中学生で体験できるので良いと思います。」(参加母)  
・「PTAの方々に育児の先輩としてのお話を聞くことができ、本当に良かった。」(参加母)  
・「赤ちゃんを抱っこした時、命の重さを感じました。何もかも私より小さいけれど、ちゃんと生きているんだなあと思いました。」(生徒)

## その他の活動内容

### 1. 相談対応

「ちょっと聞いて～」と気軽に相談できる相手として活動。  
深刻な内容は専門機関と連携して対応する。  
平成31年4月より、LINEでも相談受付、対応。

### 2. 活動情報発信

「オレサボ通信」を発行し、活動情報や学習会の案内、関係機関からの情報などを知らせる。

### 3. 年間スケジュールの作成・配付

活動拠点の地区にある子育て関係機関の年間スケジュールを作成し、各機関や地区の小中学校の子ども会に配付する。

### 4. 子育てサロン「オレンジサロン」の定期開催

0歳～未就学児を持つ親・祖父母の交流の場として開催。  
小さな子を安心して遊ばせることのできる場所を提供し、  
子育て情報の提供や育児相談対応をする。  
年1回程度、子育てに関する講座も開催する。

### 5. 地区内小中学校との連絡会の定期開催

### 6. 関係機関(地区や市の青少年健全育成活動も含む)の子育て支援活動の手伝い

講演会『子どもとお母さんのための薬の話』  
終了後の参加者の声・感想

・「薬剤師さんの話はなかなか聞けないので、とても参考になりました。」  
・「妊娠中・授乳期の服薬についての話が聞けてよかった。」

## 成果と今後の展望

### 成果

- ・LINEでの相談受付、対応を始めてから、顔見知りではない人からの相談が増えた。
- ・気になる母子や家庭について、越前市健康増進課・子ども福祉課との連携が深まった。
- ・アウトリーチ型家庭教育支援(相談者宅で、家事分担・お手伝いの指導、情報提供、相談対応)をする機会があった。
- ・活動初期のサロンに参加していた方の中で、メンバー加入希望者がいる。

### 今後の展望

- ・悩みを出しやすいツールを活用して孤立感を少なくする。
- ・母親同士のつながりが持てるように働きかける。
- ・より地域に密着した支援活動にするため、他地区でも新たな支援チームが発足できるよう、養成講座の実施など関係機関に働きかける。



# 海津市家庭教育推進協議会

## チーム・活動の紹介・活動の体制

子育てに関する多様なニーズに見合う支援活動を展開するために、支援方法の協議及び関係機関との連絡調整を図る

### ◇構成メンバー

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
人権擁護委員	教育委員会教育委員	保育協会会長	主任児童委員	青少年育成推進員	小中学校校長会長	子ども会育成連絡協議会	PTA連合会	子育て応援隊講座代表	社会福祉協議会	適応指導教室担当	教育相談担当	健康課 保健指導係

◇活動開始年月：2007年5月

◇活動拠点：岐阜県海津市

◇活動範囲：市内全域

人口 33,012人

(令和3年12月1日現在)



## 海津市にこにこ子育て支援事業の推進

### テーマ：あたりまえのことができる家庭教育支援

～基本的な生活習慣を整え、思いやりの心を大切にする家庭に～

「あ」 あったかい言葉をかけあう

【あったかい絆宣言 ～海津市はみんな家族～】

「た」 時間 (Time) を守ろう

「い」 読書 (Reading) をしよう

「ま」 マナーを守ろう (善い悪いの判断)

「え」 笑顔でほめ合い、思いやろう



## 活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期

小学生

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他 ( )

## 活動場所

幼稚園

保育所

小学校

中学校

高等学校

社会教育施設

福祉施設

保健センター等

企業

家庭 (訪問等)

オンライン

その他 ( )

## 活動内容

### 海津市家庭教育推進協議会

「にこにこ子育て通信」など

<p><b>①子育て相談 にこにこ子育て 相談チーム</b> (15人)</p> <p>相談内容により関係機関・部署と連携 対面、電話、メール、訪問相談に対応 ・相談チーム会 ・ケース会議 ・専門担当連携会議</p>	<p><b>②応援隊講座 にこにこ子育て 応援隊チーム</b> (8団体 69人)</p> <p>・応援隊講座実務者会 ・各団体による講座、学習会、交流会</p>	<p><b>③三世代交流 にこにこ子育て 地区チーム</b> (市内全小学校区10校区を拠点に14ブロック)</p> <p>社会福祉協議会と連携し、各地区役員で構成 (自治会長、青少年育成推進員、子ども会育成会長、子ども会長、老人クラブ会長、民生児童委員、母子保健推進員、福祉推進員等)</p>	<p><b>④家庭教育学級の工夫改善のための研修会</b></p> <p>家庭教育学級長等、園、小中学校のPTA役員と園長、教頭等、担当職員(25学級)</p> <p>リーダー会 ・担当者説明会 ・担当者会 ・担当者交流会</p>	<p><b>⑤子育て・親育ち講座</b> (全小学校10校)</p> <p>就学時健診時に新1年生の全保護者を対象</p> <p>・家庭教育支援員や外部講師による子育て講話</p>	<p><b>⑥家庭教育講演会(オーブ講座)</b> (年1回、11月)</p> <p>青少年育成市民大会、市PTA連合会と連携</p> <p>青少年問題協議会委員(26人)、市PTA連合会(小中学校13校)のPTA会長、母親委員長等役員)</p>
--	---	---	---	--	---

◇専門相談員による相談窓口と子育て講座・交流会  
\*発達に気になる子をもつ家庭のための相談窓口  
\*心に不安がある家庭のための相談窓口  
\*子どもの基本的な生活習慣や学習習慣に不安をもつ家庭への支援

◇家庭教育支援員によるきめ細かな対応  
(にこにこ子育て相談室)  
\*窓口・電話・メール相談、家庭訪問、学校訪問、専門機関同行等、家庭状況の多様化に配慮したサポート(相談、情報提供、指導助成)

## アピールポイント!! (特色のある取組)

### 状況に応じた相談対応

#### 相談チームで情報共有・連携

家庭教育支援員  
人権擁護委員  
教育研究所教育相談員  
適応指導教室相談員  
主任児童委員 家庭相談員  
児童発達支援事務所指導員  
母子・父子自立支援員  
子育て支援センター保育士  
警察官 保健師 栄養士  
なのはな講座専門相談員  
小中学校主幹教諭  
発達支援センター相談員

### 家庭教育支援員の活動

- 1 にこにこ相談室の開設
  - ・来所相談 ・電話、メール相談 ・訪問相談
  - ・不登校の親を支える会
- 2 関係機関との連携
  - ・学校訪問 ・社会福祉課 ・子ども課 ・発達支援センター
  - ・子ども相談センター 等
- 3 学習機会の提供
  - ・家庭教育学級での講演 ・PTA主催の講演会
  - ・就学時健診時の子育て親育ち講座 ・子育て心理学講座
  - ・子育て通信の執筆

### 相談者の声

何かあったらいける場所があるということで安心しました。

### 子育て親育ち講座参加者の感想

自分の子育ては間違いだらけです。「子どもを支配する親」であり、子どもを否定し、やる気をなくす言葉ばかりで、毎日子どもと関わっていました。今日の講話を聴いて、私自身が変わらなければと思い知らされました。子どものために、私が親として子どもとの関わり方を変えていきたいです。

## 成果と今後の展望

- アウトリーチ支援をチームで、それぞれの立場で訪問することを通して、保護者の孤立感の軽減や、気軽に相談できる安心感につながっている。
- 就学時健診時を利用して行う子育て親育ち講座には、対象者のほぼ全員が参加していただき、「親自身の自分育て」になるとして毎年とても好評な講座となっている。
- △在宅取組やリモート支援など、多くの保護者が活用できるよう工夫していく。



SmileyDream  
ホームページ



特定非営利活動法人

知多地区家庭教育支援チーム

# SmileyDream

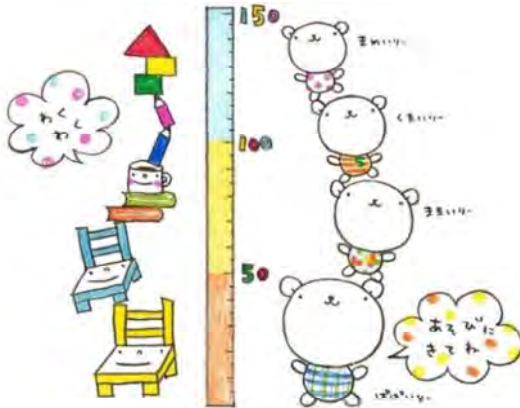


## ネグレクトによる児童虐待死亡事件がきっかけで活動が始まりました

2000年12月、愛知県武豊町で3歳の女の子が段ボールの中で餓死をした児童虐待事件が起きました。「児童虐待防止法」が施行されてからわずか1か月余りでのことでした。

「家では放置 外では笑顔」という新聞の見出しに目を奪われました。当時、子どもを病気で亡くし、家事や育児もままならなかった私（現理事長）も外では笑顔でした。子育ての辛さは一步踏み込まないと見えない。楽しく子育てしているように見えても、しんどさを抱えているママはいるはず。「私もそうだよ」の一言で**少し気持ちが楽になる**。生まれてきた**子どもの命を守る**ために、私にも何かできることがあるかもしれない。

そんな想いをインターネットで発信したところ「どんな姿になっても生きてほしい」という願いが叶わず、子どもを亡くしたママとつながることができました。そして、同じ時期に出産したママ同士が助け合える場所を作ろうと「ママサークルSmileyDream」が生まれました。



### チーム・活動の体制

- 活動開始年月** 平成13(2001)年7月 平成21(2009)年NPO法人化
- 活動拠点** 愛知県知多郡武豊町(人口約43,000人/年間出生数約300人)
- 活動範囲** 知多地区全域(人口約63万人)
- メンバー** 19人(1名育休中)

子育てネットワーカー、愛知県子育て支援員  
保健師、看護師、助産師、保育士、弁護士、行政書士  
社会福祉士、大学准教授、武豊町担当課職員

**連携機関** 行政担当課、教育委員会、大学、地域のNPO団体、企業 など

### 活動の対象

- 妊婦とその家族
  - 乳幼児期
  - 小学生
  - 中学生
  - 高校生以上
- の子どもを持つ  
保護者・家庭

### 活動場所

- 保育所
- 認定こども園
- 小学校
- 中学校
- 家庭（訪問等）
- 社会教育施設
- 福祉施設
- 保健センター等
- 企業
- オンライン





## 少子化に負けない子育てにやさしい街づくり！

少子化の加速、女性の社会参画推進により、子育て現役世代の地域参画が脆弱になることを防ぐため、ICTの活用や交流の場づくりなど様々な企画をしています。特に市町を超えた広域活動や行政や企業との協働事業の推進に力を入れています。

### ICTを活用した活動

- ◆「ハイスペックママサポーター養成講座」ではZoomを利用し、1年間にわたって子育て支援者の養成講座を開催し、子育て支援者のスキルアップと活動の継続サポートを実施。
- ◆LINE@（LINE公式アカウント）を活用したサークル運営として、多胎児ママ、新米ママ、不登校児保護者、家庭訪問支援利用者、各種講座受講者等の交流や情報交換のサポート。
- ◆Facebookページ、Instagram、Twitter、LINEなど多くのSNSツールを利用して情報発信し、適切な支援につながりやすくする。



引っ越す前から相談に乗ってくれて安心して新しい場所で子育てを始めることができました！（3児のママ）

### アウトリーチ家庭訪問活動

愛知県「家庭訪問型子育て家庭寄り添い支援モデル事業」（ホームスタート事業）として、訪問ボランティアの養成を行い、自宅への訪問や買い物・散歩・保育園送迎の同行など、保護者の子育てに対するエンパワメント力向上のサポートを行う。

- \*日本福祉大学とのタイアップ
- \*県内に本事業を普及するため、ホームスタート愛知県協議会を設立
- \*外国籍の子育てママの居場所づくり



海外にいた経験を活かして人の役に立つ活動ができるなんてとても嬉しいです！私も楽しんでいます。（ボランティア）

### 家庭のエンパワメント力UP

家庭から地域のエンパワメント力UPを目的とした講座を開催。家族で手形アート、夫婦で家事分担、ハンドタッチケア、パパ座談会、パパ&ベビーリトミック等を企画し、のべ3000名以上が参加し、受講後も交流が続いています。

武豊町親子リフレッシュ講座 ↓



← 東海市 まちづくり協働推進事業 ↓



### それぞれの望む生き方を実現

2001年から毎年「Mamaふえすた」を開催。子育て中だからあきらめるという発想から、子育て中だからできることへポジティブ変換して、みんなで助け合って楽しむイベントを企画運営しています。



2003年



2017年



### 成果と今後の展望

#### 現役ママの「恩送り」で地域の未来を変える！

現役子育て世代が次の世代のために、県や市町の子育てや家庭教育等に関する各種会議、審議会、PTA役員などに参画をしたり、子育て支援団体を設立する現役ママを多数サポートしてきました。また、ママサークル参加者が運営スタッフに移行したり、支援団体のスタッフとして活躍しています。今後も社会参画へのステップとなる活動を継続し、次世代に感謝を送る「恩送り」が根付いた、笑顔いっぱいの地域づくりを続けていきます！



(三雲小学校家庭教育支援チーム)

## みくもっこ支援委員会

### 子どもとのつながりで家庭へアウトリーチ！！

学校支援員として授業へ入り込み、子どもたちの学習支援に取り組む中、授業に必要なものがそろわない子や身なりが整わない子が気になって仕方がない二人の支援員。

その二人が子ども応援として家へ立ち寄り始めたのが8年前。主任児童委員、学童指導員の経験から、困り感いっぱいの子の親の思いを聴くことから始まった。

月日を重ねるごとに保護者や子どもからの信頼は厚くなり、家庭教育支援員としての活動は着実なものになってきている。



### チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2013年4月
- ◇活動拠点：滋賀県湖南市立三雲小学校
- ◇活動範囲：三雲小学校区（校区内人口約10000人）
- ◇チームのメンバー：6人  
(元主任児童委員1人、学童指導員1人、校長・教頭・教育相談担当・担任＝学校4人)
- ◇連携機関等：地域総合センター、子ども家庭総合センター、家庭児童相談室、要保護児童対策地域協議会、まちづくり協議会、発達支援室

### 活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期     小学生     中学生     高校生以上  
の子供を持つ保護者・家
- その他（                  ）

### 活動場所

- 幼稚園     保育所     小学校     中学校     高等学校
- 社会教育施設     福祉施設     保健センター等     企業
- 家庭（訪問等）     オンライン     その他（地域施設）



# 支援が必要な子どもとの関わりを基盤に据え、その信頼関係の上に立ったアウトリーチ型の保護者・家庭教育支援

- 支援が必要な児童の授業への入り込み支援、寄り添いにより、まず第一に子どもとの信頼関係を構築。その上での情報提供、相談対応、保護者に寄り添うアウトリーチ型の家庭教育支援としての家庭訪問により保護者との信頼関係の醸成に努める。ステップを踏んだ地道な取組の積み上げこそ大切。
- 支援対象児童・家庭への年間150回を超える家庭訪問実績
- 県派遣のSSWと連携し「ポレポレ子育て応援講座」を連続開催。支援対象家庭の参加率も非常に高く、日々の着実な関係作りが実績となって表れている。
- 広報誌「ポレポレ通信」を発行して家庭教育、保護者支援につなげる情報発信
  - ※「ポレポレ」とはスワヒリ語で「ゆっくりゆっくり」という意味である。



ポレポレ子育て応援講座



ランらん通学



ほっこりや

## その他の活動内容

- 家庭教育支援員の発起と保護者の協力で放課後スペース「ほっこりや」（地域での学習支援・居場所づくり）を開設。地域住民にも認知され、地域サークルの陶芸や将棋などで子どもたちと地域住民とのつながりもでき、地域ぐるみで子どもを育む環境づくりが進んだ。また、活動を通して世代間交流も動き出した。
- 「ランらん通学」（就学前親子通学体験）をまちづくり協議会と連携して開催。就学前の親子と家庭教育支援員との出会いは、保護者と就学前の児童の安心感へとつながり、入学後の円滑な相談活動の一助となっている。

## 成果と今後の展望

- 2名の家庭教育支援員（元主任児童委員・学童指導員）を核に、学校も校長・教頭・教育相談担当・担任をひとつのチームにした「みくもっこ支援委員会」が確立している。授業への入り込み支援をスタートにしていることから、担任との関わりが密であり、支援委員会でのアセスメントが進むようになった。この中での報告と協議を受けて、迅速に関係行政課や相談機関との連携を図っている。
- 子育て応援講座は地域支援者である民生委員・児童委員や主任児童委員、まちづくり協議会委員の参加もあり、家庭教育支援に対する理解が地域にも根付き広がってきている。
- 現在の支援員は長年月の実績の上に現在の成果があるが、支援者の輪を広げるためにも継承を意識した体制の拡充が期待される。特に中学校との連携が必須。





# 笠置地域学校協働本部 家庭教育支援チーム (ほっとサロン)



保育所を拠点に、保健師や保育士、小学校スクールカウンセラーの臨床心理士等と連携し、地域の保護者のつながりや絆、子育て支援を目的に活動してきました。「地域学校協働活動」「京のまなび教室（放課後子供教室）」と併せて、地元に着した活動を続けています。

## チーム・活動の体制

◇活動開始年月：2008年4月

◇活動拠点：京都府相楽郡笠置町

◇活動範囲：町内全域（人口約1,200人）

◇チームのメンバー：8人

（コーディネーター スクールカウンセラー 保育所長

役場保健師 小学校教頭 地域住民3人※うち2人は元保育士）

◇連携機関等：笠置保育所、笠置小学校、笠置町保健福祉課



## 活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期

小学生

中学生

高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他（ ）

## 活動場所

幼稚園

保育所

小学校

中学校

高等学校

社会教育施設

福祉施設

保健センター等

企業

家庭（訪問等）

オンライン

その他（ ）



## 地域に密着した活動

### ほっとサロン



毎月3回、0歳から12歳（小学校卒業）までの保護者を対象にサロンを開き、相談活動などを行っています。

### コーディネーターによる家庭訪問



町内の保育所、小学校を通して各家庭へ毎月の案内を配付するとともに、町内の回覧文書で啓発をしています。また、対象世帯にはコーディネーターが家庭訪問を行い、啓発と参加を呼びかけ、信頼関係を築いています。

#### 参加者（支援を受けた方）の声・感想

家で一人で子育てしていて疲れてしまった時に、ほっとサロンがあるとスタッフさんに子どもと遊んでもらっている間、相談を聞いてもらったり、同じ参加者さんとお茶を飲みながら気楽に話せる時間となっていて、いつもリラックスして帰ります。

## その他の活動内容

### 子育て講座



年に2回、保育所や小学校と連携し、開催しています。近年では、「コロナに負けない免疫を上げる姿勢」や「子育ては親育て」というテーマで行いました。

#### 参加者（支援を受けた方）の声・感想

子育てについて、講演を聴いたり学習する機会って自分では持つことがないので、小学校の授業参観と連携してやってもらえることで、参加もしやすくとても良い機会になっています。

### サロンでのイベント



#### 参加者（支援を受けた方）の声・感想

ほっとサロンでは、こんなことをやってみたいと希望を言ってみると、実現することが多くあって楽しく参加しています。イベントも企画してくれるので、参加者と和気あいあいと楽しんでいます。

「ほっとサロン」では、相談活動だけでなく、エクササイズやヨガ、クッキング教室、クリスマス会、高校生との交流など、様々なイベントを行っています。

## 成果と今後の展望

### 【成果】

2008年から10年以上に渡って、親同士のつながりの場を運営してきました。少子高齢化が進み、子育て世代が少ない環境の中、親同士がつながりをもつことができたり、ゆっくり話をしたり、聞いたりすることができる「ほっと」できる空間・時間となっています。

### 【今後の展望】

笠置町の参加者の多くが高校生との交流など他の町村との親同士のつながりを希望されているので、町を越えた近隣の子育てサークルとの交流を進めていきたい。

少子高齢化が進む中で、おじいちゃんやおばあちゃんに子どもの声を届けて町を活性化できるように、高齢者や地域住民と子育て世代の参加型の企画を進めていきたい。

# 寝屋川市家庭教育サポートチーム



大阪府寝屋川市教育委員会事務局 青少年課 072-813-0075

## 背景

- ・ 核家族化やひとり親など、家族形態の変容による、家庭生活に余裕のない家庭
- ・ 子育ての悩みや不安を抱えて孤立する家庭



## 事業目的

地域の人材を活用した家庭教育サポーターを、24小学校に派遣し、学校と連携して、「家庭訪問」「相談活動」によるきめ細やかな家庭教育支援を実施することで保護者の悩みを軽減し、子ども・保護者・学校との良好な関係づくりを行い、家庭の健全化を目指す。

## 活動開始年

平成18年～

## 活動拠点

市内24小学校

## 人口

229,099人(令和3年12月現在)



## 活動体制

- ・ 家庭教育アドバイザー(SSW) 1名
- ・ 家庭教育サポーター 24名



(子育てサポーター3名、民生委員・児童委員1名、元小・中学校等教員6名、保育士2名、公認心理師1名、その他11名)

## 活動の対象

- 妊婦とその家族     乳幼児期     小学生 の子どもを持つ保護者・家庭  
 中学生     高校生以上の子供を持つ保護者・家庭     その他 ( )

## 活動場所

- 幼稚園     保育所     小学校     中学校     高等学校  
 社会教育施設     福祉施設     保健センター等     企業  
 家庭(訪問等)     オンライン     その他 ( )  
※ 親学習講座開催や子育てについての相談活動を行っている。

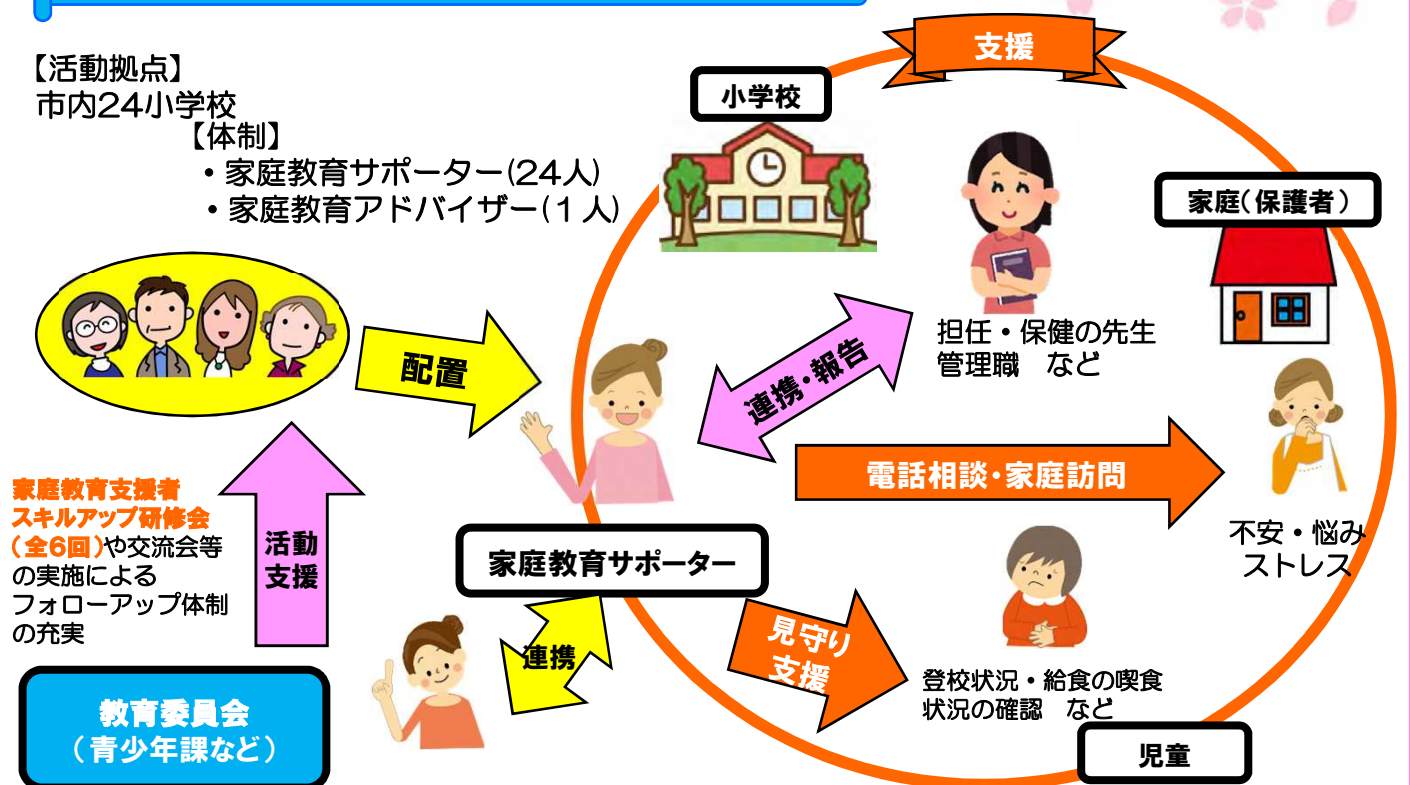
## 活動実績

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
家庭訪問回数	3,881回	3,094回	2,390回
相談件数	3,947回	4,191回	4,166回
児童対応数	10,072回	9,447回	8,922回

平成30年度～  
夏季休業中に小学1年生  
の全戸訪問等による相談  
支援の実施



## 寝屋川市家庭教育サポートチーム活動の流れ



青少年支援員・・・サポーターへの助言や支援を行う。  
(青少年課配置) また、関係機関との連携が必要なケースについては、  
**必要な支援につながるよう、関係機関(福祉部局等)につなぐ**

## フォローアップ体制の整備

### ① 家庭教育支援者スキルアップ講習会

全6回講座を開催し、寝屋川市の取組状況や保護者とのコミュニケーション方法等について学習する機会を提供することで、サポーターのスキルアップを図る。  
新たに家庭教育サポーターとして活動を希望する地域人材の発掘を実施。

### ② 家庭教育サポーターの交流会(チームミーティング)

月に2回程度、活動の振り返りなどを実施。  
→ 学び合い、支え合い、育ち合いの場

### ③ 家庭教育アドバイザーによる事例検討会

年に1回程度、具体的事例(架空)による検討会を実施し、ベテランと新人のサポーターのスキルアップにつなげる。

### ④ 日々の活動の相談

教育委員会の青少年支援員に、随時相談できる体制を整備



## 成果と今後の展望

小学校を拠点とした家庭教育サポーターの日々のきめ細やかな児童対応、家庭訪問、保護者からの相談対応等により、児童や保護者との信頼関係が構築され、児童の登校状況の改善や保護者の悩みの軽減につながった。

今後も学校や関係機関と連携して家庭の教育力の向上につながる支援を継続する。

# 私たちは、子育て家族と共に歩みます!

## 広陵町家庭教育支援チーム



つながる 継続 共に 発信



子どもは、「地域の宝」です。たくさんの人の愛情を受けて、健やかに育ててほしいとひとえに願います。私たち、「特定非営利活動法人(NPO法人)家族・子育てを応援する会」は、乳幼児の子育て家族を応援し、みんなで子どもを育てる地域を目指して、多職種のスタッフが活動しています。



本会のロゴマークは、本会の活動拠点の広陵町の木である「モクセイ」の花びらが元になっています。

活動拠点を置く市町村

広陵町:人口 35,148 人  
(令和3年11月末現在)

活動範囲

奈良県北葛城郡広陵町全域

活動開始年月

平成28年3月

構成員

11人

後援

広陵町・広陵町教育委員会

活動形態

- 保護者への学びの場の提供
- 地域の居場所づくり
- その他(個別相談)

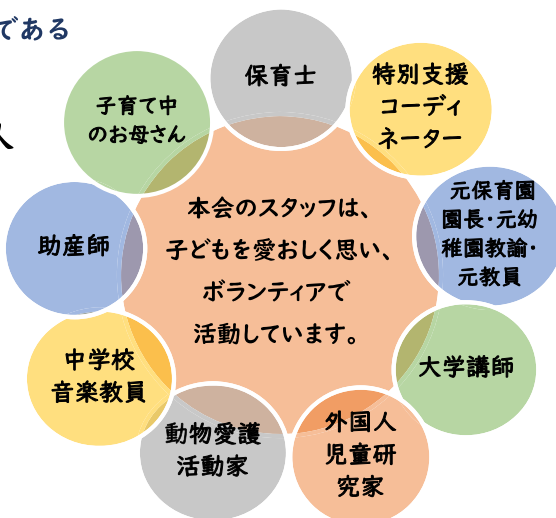
活動対象

- 乳幼児を持つ保護者に対する活動を実施

活動の目的・趣旨

地域の皆さんと共に、安心して子育てができるまちづくりを目指します

- 居場所づくり・・・乳幼児の親がほっとできる親子広場を開催します
- 地域への発信・・・地域に子育てを応援する人を増やします
- 個別相談・・・個々の家族に寄り添い共に考えます
- 連携・ネットワーク・・・支援する人たちと連携し、よりよい支援をします



Facebookで、随時本会の情報を紹介しています  
連絡先:特定非営利活動法人家族・子育てを応援する会事務局  
✉ koryo.kosodate@gmail.com





## 主な活動内容

### 子育ておしゃべり会 乳幼児の親子広場

楽しいイベントや講座、親同士のおしゃべりの交流、屋内・屋外でいろいろな広場を開催しています。子どもコーナーでは、木のおもちゃなどで子どもたちが遊びます。



歴史豊かな広陵町の百済寺三重塔前の公園で、春と秋には外遊びを楽しみます。

### 個別相談

専門職のスタッフが、電話やメール、対面で相談に乗ります。



### ゼロのわくわくプログラム 0歳児の親子広場

不安が多い0歳児の子育て時期の家族に寄り添い、学んだり交流できたりするプログラムを実施しています。



### Zoomでほっと (hot) なおしゃべり会

#### 乳幼児の親子広場

どこからでも参加でき、みんなで気持ちをシェアします。子育て中のお母さん、町長さんや行政の方々と、「子育てしやすいまち」について一緒に考える場もありました。

親子広場やイベント等は、町内外のどこからでも参加していただけます。



### おしゃべり通信

活動の様子や親の声を地域に発信します。

### 講演会・展示会 住民参加の場

「団士郎家族漫画展・講演会」には、毎年地域から多世代の住民が参加し、「子ども・子育て・家族」について考える場になっています。



《参加者の声》知らない土地に来て不安だった時、人と出会わせてくださって、「いつでも連絡してね、頼ってね」って言ってくださる、この会に本当に感謝しています。

いつも子育て中の私たちに寄り添ってくださり、リラックスできる時間、そしてためになる情報をくださり、本当にありがとうございます。この会の活動がずっと続くことを願っています。（「ゼロのわくわくプログラム」、「子育ておしゃべり会」、「Zoomでほっと (hot) なおしゃべり会」に参加されてきたお母さん）

## 成果

社会の状況や参加者の声・要望を基に、「どのように家族を支援すればよいか」についてスタッフと話し合いを重ねてきました。コロナ禍では、電話相談やお便りのやり取り、Facebookでの情報提供、Zoomの広場等の支援を続けました。対面式の広場再開後は、感染対策を徹底して開催しました。このような取り組みの中で活動内容が充実し、参加が広がりました。地域住民や行政にも子育て家族の声を届け、活動への理解や協力を得ることが多くなってきています。

## 今後の展望

子育て家族にやさしい社会をめざして、安定した経済基盤の構築を進め、家族の思いに寄り添い、地域住民や行政との連携を強めながら、本会の活動を発展させていきたいです。



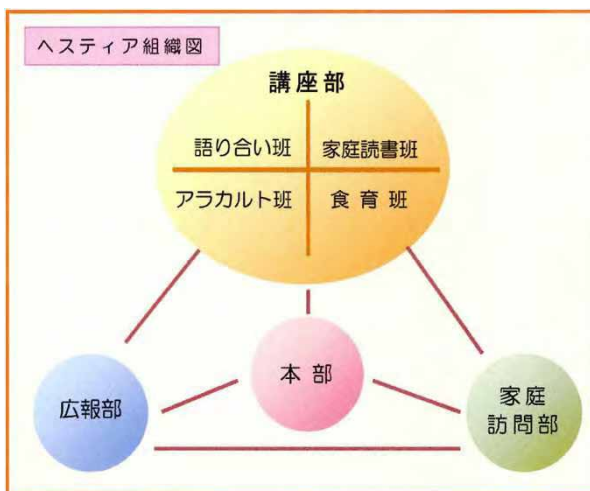
# 橋本市家庭教育支援チーム「ヘスティア」

## ●活動の目的

子どもが自立した大人に成長できるように、保護者が子育ての不安や悩みを抱えたまま孤立することが無いように学校や行政などの各関係機関と連携しながら笑顔の子育てを応援する活動を行っている。学校や園とも連携し、保護者同士や保護者と先生のつながり作りも行う等、教育と福祉、地域をつなぐハブ的存在として活動している。



## ●チーム・活動の体制



◇活動開始年月：2008年4月

◇活動拠点：和歌山県橋本市

(人口：約61,000人)

◇活動範囲：市内全域を対象に活動

◇組織：本部・講座部・広報部・家庭訪問部で構成

◇チームのメンバー：33人

県教育委員、元小学校講師、民生委員、児童委員、子育て経験者等、多様な背景を持つ地域住民が活動を行っています。

◇連携機関等：福祉部局、教育委員会、市内各園・小学校、公民館など

## ●活動の対象

妊婦とその家族

乳幼児期  小学生  中学生  高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

その他 ( )

## ●活動場所

幼稚園  保育所  小学校  中学校  高等学校

社会教育施設  福祉施設  保健センター等  企業

家庭(訪問等)  オンライン  その他( )



## ●特色のある取組

本部を中心として講座部・広報部・家庭訪問部に分かれて活動しており、チーム員がそれぞれ自分の得意分野を活かしながら、幅広い支援に取り組んでいる。

### ◇就学時健診時ワークショップ

2008年の設立当初から、市内ほぼすべての小学校の就学時健康診断の場に出向き、保護者向けにつながり作りや不安解消を目的としたワークショップを行っており、保護者、小学校の中にも活動が定着している。

### ◇ブックスタート

4～5か月児健康診断の場で絵本の読み聞かせ・プレゼントを行っている。子育ての早い時期に保護者とヘステアがつながる機会となっている。

### ◇家庭訪問

家庭に訪問し個別に悩みを聞くケースでは地域住民の一人として、長年にわたり継続して関わる事が出来る。訪問を終了した保護者も講座に参加した際に話を聞くことが出来たり、講座の参加者が家庭訪問に繋がるケースもあり、活動が相互に結びついた支援を行っている。



就学時健診時  
ワークショップ



ブックスタート



活動の様子は  
こちらからご覧  
いただけます

## ●その他の活動

### ◇講座

子育てサークルや地区公民館、学校や幼稚園等から依頼を受けて講座を行っているほか、ヘステアが主催する講座を行っている。手作りや語り合い、読書や食育等、様々なニーズに対応する多種多様な講座を展開している。

### ◇プチ体験講座

短時間で手作りの体験が出来るプチ講座を行っている。保健福祉センターに来た方が予約不要で気軽に参加できる講座を行うことで、保護者にとってヘステアが身近な存在として感じてもらうための機会を作っている。

### ◇家庭教育情報誌「げんきっこfamily」

年4回、各号5800部発行の情報誌を作成し、市内小学校や園、公共施設等を通じて子育て世代に配布している。子育てに関連した特集記事の他、おすすめの本やイベント、かんたんレシピ等の情報を提供している。

### ◇パネル展示

市内でのイベントや保健福祉センターのロビーでパネル展示を行う他、体験講座も併せて行うことで活動の周知を行っている。

## ●成果と今後の展望

- ・支援家庭が子どもに対しより良い関わり方が出来るようになったり、保護者が感じていた孤独感を解消することが出来た等の成果が見られた。また、講座参加者がリラックスした雰囲気の中で、講座に参加し語り合うことで、子育ての悩みの解消に繋がる等の効果が見られた。
- ・地域全体で子育てを見守る地域力を構築するために、地区公民館での講座も増設している。
- ・講座へ参加してくれていた保護者が支援チームに加わってくれる等、地域の中で支援の循環が出来つつある。
- ・これまでは講座主体の活動であったが、共働き世帯の増加やコロナウイルス感染症等の影響により講座に参加できる保護者が減少しているため、アウトリーチによる支援を拡大し、ブックスタート事業と連動した家庭訪問を検討している。

# 米子市家庭教育支援チーム とことこ・タムタム

私たち「米子市家庭教育支援チームとことこ・タムタム」は、米子市の子育て世代（特に、乳幼児）を対象とした事業の開催や子育てに関する情報を収集・交換することで、米子市の子どもたちの健やかな育ちを支援することを目的に活動しています。



## チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2008年
- ◇活動拠点：鳥取県米子市：人口 146,852人（令和3年11月30日現在）
- ◇活動範囲：市内全域
- ◇チームのメンバー：12人  
（元保育士、元幼稚園教諭、社会教育委員、子育て・家庭教育支援に係る各行政機関職員、民生児童委員、図書館司書、家庭教育支援活動を行う市民）
- ◇連携機関等：保育所、幼稚園、公民館、子育て支援センター、児童文化センター、市役所関係各課 等

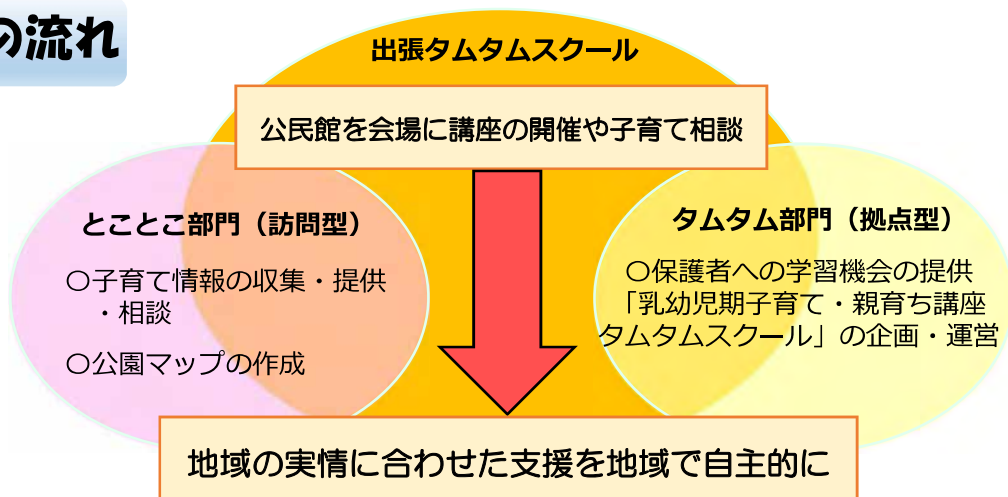
## 活動の対象

◇未就園児とその保護者

## 活動場所

◇社会教育施設、福祉施設、公園など

## 活動の流れ





## 乳幼児子育て・親育ち講座

# タムタムスクール

子育ての早い段階から人と人とのつながりを構築し、子育ての悩み・不安の軽減を図ることを目的として、例年前期（5～7月）、後期（9月～11月）で各5講座年間10講座程度、乳幼児期の子の親が子育ての知識、技術及び心を学ぶことのできる講座を開催しています。



手をかけ、目をかけ、心をかけ  
ことばを添えて

コロナ禍で  
の新しい取  
り組み！！



ワクワク親子deダンス（動画配信）

☆動画はこちらから→  
（米子市のホームページが開きます）



地域で子育て支援に携わる方や保健福祉部局職員、現役保育士や小児科医といった、子育てを中心とした各関係機関等に講師を依頼することで、多方面からの子育て支援が可能となっています。座学がメインの講座では、タムタムスクールの主旨にご賛同いただいた地域の方に託児スタッフとして参加いただき、参加者が講座を受講する間お子さんの託児を1対1で行っています。

## とことこチーム

### 公園マップの作成及び配布 地域の子育て支援拠点での支援活動

平成22年7月に、米子市家庭教育支援チーム「とことこ」カレンダー＆応援ブック（初版）を発行し、その後必要に応じて改訂版の発行を行っています。また、平成27年から2年間かけて米子市内の全公園調査を行い、公園マップを作成及び配布しました。米子市内、西部地区内子育て支援センター、子育てサークル（公民館）、米子市児童文化センター等を訪問し、利用者に対して子育てに関する情報収集や提供、相談や遊びの支援を行っています。



子育てサークル支援活動



公園マップ・リーフレット

#### 参加者の声

- ・コロナ禍で人と関わる機会が減ったので子どもの良い刺激になりました。自分にとっても子育ての良い息抜きになりました。
- ・気持ちに余裕のない子育てをしていたのでハッとしました。



#### 成果と今後の展望

これまで活動を続けてきたことで、子育て世代に「米子市家庭教育支援チームとことこ・タムタム」が認知され、タムタムスクールには毎年300～400名の受講者が申し込まれています。また、とことこチームとしての活動では、各支援機関の情報を収集・提供することで、共通の「子ども観」を見出し米子市の子どもたちの健やかな育ちの支援に寄与しています。今後は、これまでの活動を継続していくとともに、さらに子育て世代に寄り添った支援の展開を目指しています。

# すくすくハート

## ♡チーム・活動の紹介



早島町家庭教育支援チーム「すくすくハート」は、子育てに関する情報や学習機会の提供・相談体制の充実・家庭の孤立化の防止等を目的に、子育て支援に携わる地域の皆さんを中心として、平成30年に発足しました。学校園や行政、地域の方と連携しながら、チーム員が健診や地域・学校行事に参加し、保護者とふれあったり、学びの場を作ったりしています。2か月に1回程度の運営会議でメンバーが意見を出し合い、家庭教育支援の取組を考えています。

## ♡チーム・活動の体制

♡活動開始年月 2017年10月   ♡活動拠点 岡山県早島町

♡活動範囲 町内全域（人口約12,700人）

♡チームのメンバー 10人

（子育て支援センター職員、元幼稚園長、元民生児童委員協議会会長、愛育委員代表、健康福祉課母子保健コーディネーター、学校教育課職員、親育ち応援学習プログラムファシリテーター、学校運営協議会委員、子育て支援団体代表）

♡連携機関等 学校園、行政、子育て支援センターなど

## ♡活動の対象

♡乳幼児   ♡小学生   ♡中学生   の子どもがいる保護者・家庭に対する活動を実施

## ♡活動場所

♡保育所   ♡幼稚園

♡小学校   ♡中学校

♡社会教育施設

♡保健センター等   ♡家庭（訪問等）





## ♡おもな活動内容

### ♡♡♡活動拠点での相談対応♡♡♡

教育委員会主催のプレーパーク、健康福祉課主催の保育相談・健診・教室等にチーム員が補助として参加し、託児や保護者への声掛け等をしながら、相談を行います。



健診での声掛け

託児をしてくれるから、安心して参加できますね！

気軽に子育ての先輩に相談できるので心が安らぎます。



プレーパークでの交流

### ♡♡♡情報誌の作成・配布♡♡♡

子育ての行事や豆知識、絵本の紹介等、保護者が求めている情報を届けるために作成しています。チーム会議の中で内容を検討し、3か月に1回発行しています。

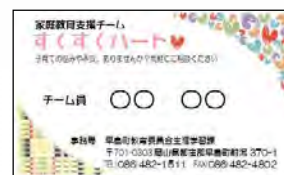


### ♡♡♡家庭訪問による支援♡♡♡

生後4か月以内の新生児がいる家庭にチーム員である母子保健コーディネーターが訪問し、体重測定や、母子保健サービス・予防接種の説明を行った後、チームの活動紹介をします。



『子育てサロン・遊び場一覧/子育てサポートカレンダー』



名刺



『すくすくハート』

チームで作成した情報誌『すくすくハート』と、『子育てサロン・遊び場一覧/子育てサポートカレンダー』、名刺を配付しています。

### ♡♡♡「親プロ」を活用した研修会♡♡♡

学校園の保護者を対象に、「親育ち応援学習プログラム」を活用した学習会を毎年3~4回、学校園の参観日や就学前健診、入学説明会、PTA研修会等の中で実施することで、多くの保護者が交流しています。学習会の司会進行は、「ファシリテーター養成講座」を受講して育ったファシリテーターが務めています。



就学前健診や入学説明会での保護者同士の交流

ファシリテーター養成講座

互いに悩みを持っていることを知って、自分だけではなかったのだと少し心がほっとしました。

講義の後に実践もできるので、本番もがんばれそうです！

## ♡成果と今後の展望

チームの活動により、保護者がチーム員と顔なじみになるなど、保護者との関係づくりができました。また、学校園や健康福祉課を始め、様々な機関との連携が生まれ、町内の家庭教育に関する情報の収集や整理が進みました。今後は、チーム員の増員や活動種別や課題に応じた部会を組織する等、主体的で継続的な活動ができる体制を整備したいです。



# 呉市教育会

呉市教育会は、市民参加を主体とした、呉市の教育を支援する民間教育団体です。1961年、教育の正常化と青少年の非行防止を旗印に、学校・家庭の教育力の回復と社会の教育環境の浄化を目指して発足しました。以降60年間、地域・幼稚園・保育所・学校と連携しながら、家庭教育、社会教育および学校教育の支援に取り組むなど、呉市教育の充実発展に多大の役割を果たしてきました。

現在約1,400名の会員が呉市内全域におり、学校や行政の要望に応じて、教育ボランティア活動などに取り組んでいます。

## 【チーム・活動の体制】

- ◇活動開始年月：1961年1月
- ◇活動拠点：広島県呉市
- ◇活動範囲：市内全域  
(人口21万3850人(令和3年12月1日現在))
- ◇会員：約1,400人  
(元教員, PTA, 学生ボランティア, 地域協力者など)
- ◇連携機関等：幼稚園, 保育所, 小学校, 中学校, 高等学校, NPO, 行政(福祉保健部局・教育委員会・文化振興課・市民センターなど)
- ◇活動費：活動費のほとんどは賛同者の会費でまかっています。

## 【活動の対象】

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期      小学生      中学生      高校生以上
- その他 (小・中学生)
- の子供を持つ保護者・家庭

## 【活動場所】

- 幼稚園      保育所      小学校      中学校      高等学校
- 社会教育施設      福祉施設      保健センター等      企業
- 家庭(訪問等)      オンライン      その他(生涯学習センター, 市役所庁舎内)

## 【主な活動内容】

### 〈家庭教育相談〉

家庭教育・子育てについて、家庭教育相談部会のメンバー（元教員など）が保護者からの相談を受け、専門家としてアドバイスを行っています。呉市と連携して10月と2月に実施しています。（5日間×2回）

### 〈あつまってクレ〉

子供の学習支援事業として、社会福祉協議会と呉市生活支援課からの委託により実施しています。

毎週1.5～2時間、高校生・大学生・元教員のボランティアによるマンツーマンの学習支援や、看護学部学生による生活指導などの機会を提供しています。体験活動も年2回実施しています。

子供たちの居場所づくり、人間関係づくりの場となっています。

### 〈新井戸端会議〉

幼稚園・保育所で保護者・施設関係者・教育会のメンバーで幼児教育・子育てについて話し合い、保護者同士の悩みを共有し、専門家としてアドバイスも行っています。

### 〈ふるさと呉・昔話シリーズの執筆、編集〉

地域の文化を大切に、子供たちに伝えることを目的に、呉市の各地域にまつわる昔話を「ふるさと呉・昔話シリーズ」として執筆、編集しています。



↑あつまってクレの学習支援



↑新井戸端会議での意見交流



↑あつまってクレの体験活動



←家庭教育相談に向けた研修、  
打ち合わせ

ふるさと呉・→  
昔話シリーズ



この他にも、小学生童話大会などへの支援、会員の研修会、広報事業など、様々な活動を通じて、呉市の教育を支援しています。

## 【活動の成果】

長い間積み重ねてきた相談方法や支援方法で、呉市の子育て世代が安心して子育てをできるようなまちづくりができています。

## 【今後の展望】

今後も未来を生きる子供たちの幸せを願い、学校教育、家庭教育、社会教育を様々な形で支援していきます。



みなさんに役立つ内容を  
テーマに情報誌を発行

## ～ながとのすべての親子のために～

【ながとの親子を応援しています。】

山口県教育委員会主催の家庭教育アドバイザー養成講座修了者で構成したボランティアグループです。

- 市内各小学校の就学時健康診断を活用した保護者の輪づくりを実施！
- 学校内「子育てひろば」において、生徒と乳幼児親子との交流をサポート！

### チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月：2014年7月
- ◇活動拠点：山口県長門市
- ◇活動範囲：市内全域（人口約32,000人）
- ◇チームのメンバー：9人（保育士2人、民生委員（主任児童委員）1人、長門市議1人、公民館嘱託職員1人、小学校読み聞かせの会2人、理学療法士1人、PTA役員1人）  
（家庭教育アドバイザー養成講座修了者、兼務で母子保健推進員、子育て支援センター支援員、社会教育指導員など）

### 活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期       小学生       中学生       高校生以上  
の子どもを持つ保護者・家庭
- その他（                      ）

### 活動場所

- 幼稚園       保育所       小学校       中学校       高等学校
- 社会教育施設       福祉施設       保健センター等       企業
- 家庭（訪問等）       オンライン       その他（                      ）



## アピールポイント！！（特色のある取組）

【子育て交流会】毎年市内小学校（11校）で実施される就学時健康診断時に、保護者に対し早寝早起き朝ごはんや睡眠の大切さなどを中心とした生活習慣・スマホ育児の注意点・子どもの正しい靴選び等について講話を行っている。その後、保護者・PTA・支援チームが一緒になり、ワークショップで不安や悩み、心配ごとなどを話し合い、先輩からのアドバイスを交えながら、入学後も相談できる関係づくりを行っている。そして、その時の意見や感想等をまとめて各学校に届け、学校との情報共有を図っている。

交流会に参加した保護者からは、「悩みや不安が軽くなった。近所に同級生がいることが分かった。入学してもこのような集まりを行ってほしい。」などの声があった。

学校からは、「参加される皆さんが交流して仲良くなることを第一に実施してほしい。」という要望がある。



## その他の活動内容

【子育てひろば】中高生が乳幼児親子と触れ合うことで、家族や子どもを持つことの大切さを身近に感じる機会になり、生徒はもちろんだが、先生も生徒の普段学校では見られない表情を見ることができ、良いコミュニケーションの場となっている。

また、高校では家庭科の授業で企画段階から連携し、プログラムや運営も生徒のアイディアを取り入れながら行った。ひろば当日には、保護者とのフリートークタイムや生徒手作りの人形劇や遊びコーナーも実施した。



【ケータイ安心安全講習会】子どもをネット被害から守る目的で行っているため、共感する人も多く、学校や地域団体を対象とした研修としても広がっている。

## 成果と今後の展望

【成果】生活習慣学習については正しい情報を分かりやすく提供することにより各家庭での実践に役立てられている。気軽な相談から、誰にも言い出せない重い悩み相談まで、一番身近な相談員として対応できている。また、課題の解決に向けては、支援チーム内での定例会で対応策を協議することにより、的確な判断に基づいて行うことができている。

【今後の展望】「ふぁみ」の想いや目的を共有できる仲間を増やすとともに子育て中の皆さんに寄り添い、身近な相談相手でありたい。

# 丸亀市家庭教育支援チーム きっずコム

## ～目指す社会像～

- ♡子どもを産み育てることに  
幸せを抱ける社会に！
- ♡みんなで支え合い、  
育ち合える共生社会に！
- ♡Only Oneを認め合い、  
誰もが活躍できる社会に！
- ♡子どもが子どもとして  
大きな夢を持ち夢に向かえる社会に！



### 活動の目的・趣旨

1983年に「丸亀子ども劇場」として発足し、“すべての子ども達にたくましく豊かな創造性を！”をスローガンに22年間活動。その軌跡を大事にしながら、2005年9月、NPO法人さめきっずコムシアターとしてスタート。2012年には活動の拠点を大きな古民家に移し、子育てや家庭教育支援などの活動や、子どもからおとなが交流を深められる居場所づくりを展開し、地域みんなで助け合い、育ち合う社会づくりを目指して、日々活動しています。また、子どもの育ちを切れ目なく応援し、誰もが主役となれる場を創りたいと考え、様々な新しい活動にもチャレンジしています。

### チーム・活動の体制

- ◇活動開始年月  
1983年度「丸亀子ども劇場」として発足  
2005年 法人設立「NPO法人さめきっずコムシアター」スタート！  
2020年 認定NPO法人に認定
- ◇活動拠点・範囲：香川県丸亀市：人口 109,429人（2021年11月1日現在）
- ◇チームのメンバー：30人  
うち役員8人・スタッフ22人（うち元教員1名、保育士・幼稚園教諭9名、子育て支援員6名、保育サポーター3名）
- ◇連携機関等：行政(福祉・教育・文化) ・ 社会福祉協議会 ・ 企業 ・ NPO団体



### 活動形態

- 保護者等への学びの場の提供
- 地域の居場所づくり
- アウトリーチ型家庭教育支援
- その他（保護者への情報提供、相談対応等）

### 活動の対象：丸亀市全域および近隣地域 ～妊娠期を含め、乳児から高齢者まで～

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期
- 小学生
- 中学生
- 高校生以上
- の子供を持つ保護者・家庭
- その他（高齢者）

### 活動場所

- 幼稚園
- 保育所
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 社会教育施設
- 福祉施設
- 保健センター等
- 企業
- 家庭（訪問等）
- オンライン
- その他（団体施設）



## 主な活動内容

さぬきっずコムシアターのHPはこちら  
<https://sanukids.org>



Zoomなどのオンラインも活用しています♪

### 子ども体験事業

#### ■舞台芸術鑑賞体験

様々なジャンルのアロによる優れたステージを企画実施し、鑑賞します。文化芸術体験が心を豊かにし、人間の可能性を創造します。子どもからおとなまで楽しめます。



#### ■ワークショップ体験

五感をフルに使う体験の場で、遊びの中から身体で感じ取り「生きる力」を育みます。なかでも忍者修行は、とても人気の高い恒例の企画です。



#### ■子どもバンド活動

幼児～小学生メンバーのバンドで、月1回程度のレッスン活動と演奏活動を行います。  
 (イベント発表・高齢者施設訪問など)



### 地域子育て支援拠点事業 (丸亀市委託)

#### 乳幼児親子が自由に集える子育てひろばを開設

##### ■乳幼児親子のひろば

- ・コムコムひろば・とき
- ・コムコムひろば・あやうた
- ・出張ひろば・コムコム城坤
- ・出張ひろば・コムコム城南



##### 参加者の声

コムコムがあったから、子育てががんばれています。悩みを聞いてもらえたり情報が知れたり心の拠り所になっています。

<http://com-com.main.jp>

##### ■サークル活動

コムコムひろばの利用者パパやママから生まれたサークル活動です。



・ママの演奏グループ「空色のメロディ」

・パパサークル「とっとコム」

・多胎児サークル「コムチェリーズ」

### 放課後子供教室 (丸亀市委託)

#### ■放課後子供教室 どんきん☆くらぶ

小学生を対象に「学び・遊び・体験・ふれあい」ができる「子どもの居場所」として開室



#### 出張事業

イベント時の一時預かり、造形教室講師請負舞台公演のマネジメントをしています。

■託児者出張

■講師出張

### コミュニケーション事業

異年齢や同年代で共に学び共に育ち合うふれあいの居場所です。

- 中高生 (テラ☆ティーンズ)
- シルバーの居場所 (エンジョイコムライブ)
- 幼児親子 (じゃんぷくらぶ)
- 子育てママ (ママねっと)
- 親子で (親子ねっと)
- 婚活応援『DE♡あい』



### きっずスクール事業

#### ■きっずコム 子どもアトリエ

子ども一人ひとりの個性を大切に豊かな感性と表現力を育みます。



#### 広報事業

##### ■機関紙

「きっずコムレター」「NEWS」発行

##### ■HP

さぬきっずコムシアター

■各種 SNS を活用した情報発信  
 きっずコムのFB/インスタ



### 子育て支援コーディネート事業「トゥインクル」

子育て家庭の身近な場所で子育ての困ったこと、聞いてみたいことの相談を個別に対応しています。



### みんなの居場所事業

- 地域の食卓「コムカフェランチ」
- シルバー世代の「チャレンジサロン」
- 誰もが集う「コミュニティサロン」
- 障がいのある方の「ハートフルサロン」



### 未来を担う命の絆プロジェクト

中学校に出向き、中学生に対し、助産師さんによる「命の講座」と「あかちゃんふれあい教室」を実施。おとな対象に子どもとの関わり方の子育て講座も実施しています。



### 成果と今後の展望

子どもを中心にした多岐にわたる活動を行うことで、子どもたちが様々な経験を重ねることができ、創造性や感性が育まれています。活動の中で、異年齢の子ども同士が関わり、お互いに助け合ったり、教え合ったりできる仲間づくりができており、その体験活動は、社会の中の多様な人の手で成され、子どものみならず親や関わる地域の大人の交流にも繋がっており、共助の関係性が育まれています。活動の受益者がやがて支援者として活動を繋いでいき、構築された活動の場は、子育ての学びの場、世代を超えた交流の場でもあり、人々の心の居場所でもあります。子育て講座の実施においては、多くの親の学びの場となっており、継続的な要望を受けていますので今後も続けていきます。現在コロナ禍において活動の制限もできております。孤立しがちなこのような状況だからこそ、子育て家庭のつながりを大切にしていかなければと、改めて地域力を高める必要性を感じています。  
 (認定 NPO 法人さぬきっずコムシアター)



# 宇和島市家庭教育支援チーム

## 「地域家庭教育支援活動」

### ♪宇和島市家庭教育支援チームを紹介します♪

当チームは平成20年度に結成され、参加者の意見・要望を反映させながら、市全体で家庭教育を支えるための活動を行っています。

公民館を拠点として開催する「子育て学習会」や、保護者と地域住民が気軽に集い、子育ての悩みや情報交換が自由にできる「子育て座談会（ほのぼ～のカフェ）」等を実施し、保護者に寄り添いながら、緩やかに温かな地域ぐるみの家庭教育支援を目指しています。

**活動開始年月** 2008年4月 **活動拠点** 愛媛県宇和島市

**活動範囲** 市内全域（人口約71,500人）

**チームのメンバー** 17人

（子育てサポーター・リーダー2名 民生委員・児童委員1名 元教職員4名 管理栄養士2名 心理士・スクールカウンセラー1名 その他7名）

### 活動形態

- 保護者への学びの場の提供
- 訪問型家庭教育支援
- 地域の居場所づくり
- その他（子育ての悩み相談）

### 活動の対象

- 妊婦とその家族
- 中学生
- その他
- 乳幼児期
- 高校生以上の子どもを持つ保護者
- 小学生

### 活動場所

- 幼稚園
- 社会教育施設
- 企業
- 保育所
- 福祉施設
- 家庭（訪問等）
- 小学校
- オンライン
- 中学校
- 保健センター等
- 高等学校
- その他



～ALL宇和島で子育て支援～

## 🌸 子育て学習会

### 大きくな～あれ うわじまっこ♪

学習会のテーマは、『親子のふれあい体操～ミュージック・ケア～』『食育講座』『親子でうどんづくり』『本に親しもう～読み聞かせ・本の紹介～』など複数あり、テーマに応じて、親子での体験学習や、保護者に向けた講話形式があります。

親子での体験活動では、活動の合間に時折見せる我が子の成長に驚いたり、新たな『気づき』を発見できたりしたという声が多く寄せられています。

講演会では、食育や自尊感情の育て方等、子育てに必要なことを、講師陣の専門的な知識や経験等を活かして、参加者が理解しやすい学習会を展開しています。



【親子のふれあい体操】



【食育講座】

## 🌸 子育て座談会『ほのぼーのカフェ』☕

子育て座談会では、子育て家庭はもちろんのこと、地域住民の参加を広く呼び掛けています。アットホームな雰囲気の中で、子育ての悩みや実体験での失敗談、その解決策などについて自由に意見交換が行われ、地域全体で子どものことについて話し合います。託児所を設けたり、夜間に開催したりするなど、子育て世代が参加しやすいように工夫しています。

## 🌸 広報紙『てとてと手』の発行

年3回発行：チーム員が定期的に学校等を訪問して事業の周知を行っています。



## 成果と今後の展望

### 【成果】

「子育て学習会」では、子どもたちの成長を感じながら、大人も子どもも楽しく学習することができました。また、保護者に向けた講話形式の学習会では、保護者の新たな学びにつなげることができました。

「子育て座談会」では、子育て家庭だけでなく、地域住民にも参加を呼びかけることで、様々な方が座談会に参加していただいております。地域ぐるみで子どもと保護者を見守るという安心感が生まれています。

### 【今後の展望】

現在の活動の充実させるとともに、その中でも特に、学習会等に参加していない保護者をターゲットにした相談活動について、学校や様々な団体等と連携を図りながら進めていきたいと考えています。これからも引き続き宇和島市全体で子どもを育てる環境づくりを目指します。





推薦都道府県：佐賀県

# NPO法人唐津市子育て支援情報センター



安心して子育てできる  
やさしい街づくりを目指して  
お互いに助け合い支えあ関係  
づくりを育てています。  
心にゆとりとやさしさを持って  
社会全体で子育てできる環境づ  
くりを行っています。



活動の対象  
子育てに関わるすべての人々

## 活動内容

- ・子育て支援部門
- ☆利用者支援事業「おひさま」
- ☆地域子育て支援拠点事業「ゆっくりん」
- ☆サテライト事業
- ☆中学校子育てサロン事業
- ☆産後ママリフレッシュタイム
- ☆主催講座  
(食育講座・リフレッシュ講座)

## 活動開始

平成16年6月

## 活動拠点

- ☆唐津市(約11万人)
- ☆玄海町(約5,000人)

## 連絡機関

幼保園、小・中・高校  
医療機関、行政、公民館  
地域団体、企業等



チームメンバー  
130人

(看護師・保健師・助産師・  
教員免許・養護免許・保育士・  
幼稚園教諭・栄養士・民生・児童  
委員・母子保健推進員・佐賀県  
子育て支援員・佐賀県家庭教育  
育リーダー養成講座修了者・支  
援活動経験者等)

## その他

- ・子育て緊急サポート部門 ☆ファミリー・サポートセンター「ラビットくん」
- ・病後児保育部門 ☆病後児保育「しろくまくん」
- ・唐ワンくん部門 ☆唐ワンくん事業





# 中学校子育てサロン



2021年より中学校の中での  
子育てサロンを開始  
地域と中学生、乳幼児親子の  
交流の場を作っている



## 開催校

### 【中学校】

唐津市市立中学校 19校  
県立中学校 1校  
私立中学校 1校  
玄海町町立中学校 1校

### 【高等学校】

佐賀県立高等学校 2校

## 2019年度参加者

中学生...1,369名  
親子...1,220名  
地域の方...663名

## つながり

中学校、高校、幼保子ども園、行政、保健センター  
公民館などと連携をとり、PTA・民生児童委員・  
主任児童員・母子保健推進員・保健師も参加している。  
学校・子育て中の親子・地域がつながって  
サロンを作っている。



## 参加者の声

### 中学生

「赤ちゃんってあったかい」  
「自分や家族を大切にしていきたい」

### 乳幼児親子

「中学生へのイメージがわかり  
不安がなくなりました」

### 地域

「中学生が地域であいさつしてくれるようになった」

1校からスタートした  
中学校子育てサロン  
地域全体で育ていただき  
唐津市、玄海町の全中学校で  
開催できるようになりました。  
これからも多方面と協力して  
進化していきたいと  
思っています。



# 由布市はさま家庭教育支援チーム

【～地域ぐるみの子育ての実現に向けて～】

はさま未来クラブ



## ほっこりカフェ 対象 小中学生の保護者

▶開催 毎月1回土曜日

保護者対象のゆっくり話せる空間の提供。

## はさま地域放課後子ども教室「学楽多塾」<sup>がらくたじゅく</sup> 対象 小中学生とその保護者

▶開講 毎週 水・金・土曜日 ・ 夏休みなどの長期休業中

挾間の郷土料理や豆知識を地域の様々な方が講師となり教えている。押し花やまんが、実験等、多種多様な講座がある。学校内や公民館で教室を実施し、保護者を巻き込んだ子どもの居場所づくりになっている。

## 子育て支援拠点事業 対象 未就学児の保護者家族

### 一時預かり事業

▶開設 毎週 月～金曜日

身近なところで、気軽に親子の交流ができる「屋根のある公園」として場所を提供。

保育士・社会福祉士・発達支援などのエキスパートが常駐し、相談業務も充実させている。

## チーム・活動の体制

◇活動開始年月：平成22年（西暦2010年）4月

◇活動拠点：大分県由布市

◇活動範囲：由布市挾間町、挾間中学校区

（人口約33,820人 うち挾間地域 17,149人）※R3.11月末現在

◇チームのメンバー：18人

（地域人材活用指導員 1名、家庭教育支援員 2名、保育士 5名、

社会福祉士 1名、保健師 1名、幼稚園教諭 1名、

地域子育て支援士二種 2名、地域子育て支援士 2名、子育てサポーター 3名）※R3.11月末現在

◇連携機関等：挾間公民館・社会教育課・挾間中学校区小中学校

子育て支援課・健康増進課



## 活動の対象

■ 妊婦とその家族

■ 乳幼児期

■ 小学生

■ 中学生

□ 高校生以上

の子供を持つ保護者・家庭

□ その他（ ）

## 活動場所

■ 幼稚園

□ 保育所

■ 小学校

■ 中学校

□ 高等学校

■ 社会教育施設

■ 福祉施設

□ 保健センター等

□ 企業

□ 家庭（訪問等）

□ オンライン

□ その他（ ）



## 未就学から小中学生まで、切れ目のない支援の実施

### 保護者の困り

- ・身近に家族（親族）や援助を頼める人がいない
- ・子育ての相談をできる人がいない
- ・なかなか自分の時間がとれない

### 未就学児から、小中学生の保護者の集える場所を開設

### 保護者の困りに寄り添い

### 利用者同士のピアサポートや専門家による支援

- ・子育て関連情報の提供
- ・子育て中の親子へ交流の場の提供、交流の促進
- ・子育てに関する相談、援助
- ・子育て支援に関する講習  
発達支援のリトミックやスキンシップ  
子どもと一緒に学べる教室も実施



親子クッキングの様子

#### 親子クッキング参加の保護者の感想

子どもと一緒に食事を作ることで、親子の会話も増えました。アットホームな雰囲気、のびのびと活動する姿を見ながら、他のお母さんたちと子どもの成長を共有でき嬉しかったです。

## より良い支援へ繋げるために

情報共有やよりよい指導方針の検討を行い、指導者のスキルアップを目指す。



### 職員の情報共有

毎朝のミーティングや月会議では、支援継続中の親子の様子や相談内容を共有し、誰が担当しても同じ声かけや対応が出来るよう、指導や方針の検討を重ねている。また保健センター等関係機関とも月に1、2度のペースで共有会議を設けている。

### 事例検討会

より良い支援につなげる為に、重点的に支援が必要であると思われる親子や経過を見ている事例をあげ研修を実施。スタッフの共通理解のもと、支援にあたっている。

### スタッフの資質向上へ 各種研修会への参加

大分県主催の子育て支援研修・発達障がいなど専門性の高い研修にも積極的に参加している。

↑ 研修会

← 一時預かり



#### 相談・一時預かり利用者の感想

転勤で挟間に引っ越してきました。周りに知り合いもなく、すがる思いで相談に行ったこと。一時預かりを利用後に、娘の笑顔を見てホッとしたこと。今でも鮮明に覚えています。そんな場所が近くにあった良かった。感謝しています。

## 成果と今後の展望

平成17年10月に3町が合併し由布市が誕生、当時の人口は約36,000人であった。令和3年11月末現在では約33,820人となり、人口減少率9.1%であるが、平成30年度より高校生まで医療費無償化を市の施策として打ち出して以来、由布市挾間町においては近隣の市より転入者も増え人口増加率10%となっている。それに加え、発達障がいを抱える子どもの受入れも多く、家族だけで支える家庭教育にも限界があることから、地域の子育て支援の充実が急務である。核家族化が一層進む今後は福祉・教育の垣根を超えた連携・強化を図って行きたい。





# 都農町家庭教育応援団 「さん・さん」

令和元年度から、都農町内の全ての保護者が安心して子育てができる地域づくりを目指して、都農町家庭教育サポート推進事業が始まりました。その具体的な活動の中心となるのが「都農町家庭教育応援団『さん・さん』」です。都農は「TSUNO」と英語表記され、真ん中に「SUN(さん)」(太陽)があります。「さん・さん」という名前は、この太陽のように明るく笑顔であふれる家庭や町になって欲しいという願いを込めて付けられました。都農町教育委員会がサポートしながら家庭教育支援員を中心に、地域のボランティアが保護者を対象とした相談対応や保護者学習会、親子交流イベント等を行っています。

- ◇活動開始年月：2019年9月
- ◇活動拠点：宮崎県児湯郡都農町
- ◇活動範囲：町内全域（人口約10000人）
- ◇チームのメンバー：9人



（家庭教育支援員1名、保護司1人、人権擁護委員1人、子育て経験者1人、応援企業関係者1名、町内PTA関係者4名）

- ◇連携機関等：幼・保園、小学校、中学校、教育委員会、健康管理センター

「さん・さん」は、サポートチーム会議を開いて研修や企画をしているぴよん!!

研修では、傾聴の大切さや児童虐待等の社会問題についての情報共有、アイスブレイキングの体験などを行っています。

都農町マスコットキャラクター  
「つのぴよん」



## 活動の対象

- 妊婦とその家族
- 乳幼児期     小学生     中学生     高校生以上
- その他    ( 地域住民 地域企業・団体等 )    の子供を持つ保護者・家庭

## 活動場所

- 幼稚園     保育所     小学校     中学校     高等学校
- 社会教育施設     福祉施設     保健センター等     企業
- 家庭（訪問等）     オンライン     その他（ 都農町役場 ）

## 保護者の学びの場

家庭教育学級や就学時健康診断において宮崎県が作成した「みやざき家庭教育サポート・プログラム」を活用した保護者学習会を実施しています。初めて会った保護者でも気軽に話せて、保護者仲間が増えています。



## アウトリーチ型支援

多くの保護者に家庭教育支援の輪を広げるために、学校や健康管理センターにおいて家庭教育に関するポスターやチラシを配付して啓発を行っています。

### つの家庭教育3×3か条



【1歳6ヶ月健診】



【小学校参観日】

## 保護者がつながる場

学校の参観日等に、保護者同士や地域の方々をつなげる「さん・さんサロン」を開催しています。お茶を飲みながら、保護者同士や民生児童委員の方と会話が弾みます。



## 親子交流イベント

親子参加型の自然体験や創作活動等をとおして、親子の絆や家族間の交流を深め、地域とのつながりが増えるようなイベントを企画しています。地域の方々の協力を得ながら、活動を進めています。まさに「地域は家庭の応援団」!!



【門松作り】



【料理教室】



【フォトウォーク】

## さん・さん農園

親子交流の場として、さん・さん農園を設置しアトランティックジャンボカボチャやサツマイモを栽培しました。収穫した作物を食べたり、畑用の看板を作ったりしました。ジャンボカボチャの重さ当てクイズをしたり、カボチャに好きな絵や願い事を書いたりして楽しみました。



- 【参加者の感想】
- 子どもと一緒に、ゆっくりと時間を過ごすことができました。
  - 親子で家では体験できなかったのができたのでとても楽しい時間を過ごせました。
  - コロナ禍で出かけることも少なく、町内で親子で参加できる場があってありがたいです。
  - 楽しく収穫できて、そのお芋をその場で食べられたことが嬉しかったです。



2次元バーコードを読み取るとHPで活動の様子を確認することができるぴよん!!



## 成果と今後の展望

- 家庭教育支援員や地域ボランティアによるイベント等の企画・運営により、地域住民の主体的な家庭教育支援の活動の仕組ができました。
- 学校、家庭、地域が一体となり、保護者が学んだり、つながったりする場ができたことで、悩みを相談したり、関係機関が把握したりして早期に対応することができました。
- ◇ 今後は、これまでの活動を継続させていくとともに、多様な地域ボランティアの確保や各団体をつなぐことで、親子交流イベント等を充実させていきます。そして、1人でも多くの保護者に支援を届けていきます。



# 名護市家庭教育支援チーム

## つながるWaRaBarプロジェクト



### 活動の目的・理念

名護市家庭教育支援チームは、すべての親が家庭教育に関する学習等ができるよう、地域における支援体制を整え、地域人材の育成や活用、学校や関係機関との連携による持続可能な仕組みをつくり、地域全体で家庭教育支援を推進することを目的に活動しています。



### チーム・活動の体制

- ◇活動拠点：沖縄県名護市  
人口64,021人(令和3年10月31日現在)
- ◇活動開始年月：2014年4月
- ◇活動範囲：市内全域、21校区
- ◇チームのメンバー：30人  
(保護者、スクールカウンセラー、元教職員等)
- ◇連携機関等：市内小中学校

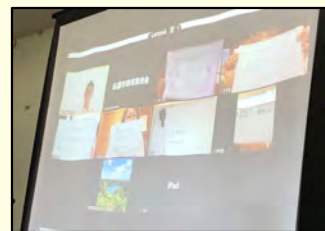


### 活動の対象

- 乳幼児期
- 小学生
- 中学生
- 市内在住の子どもに関わる方

### 活動場所

- 小学校
- 中学校
- 社会教育施設
- オンライン



※コロナ禍ではICTを活用し、定例ミーティングや各種講座、親子参加型イベント等をオンラインで実施し継続的に活動している。



## 特色ある取り組み



地域家庭教育支援チーム配置

「フリーコミュニティスペース」実施

※家庭・地域・学校の交流の場



市内全小学校区（13地域）へ配置可能な支援体制づくりを行う。



フリーコミュニティ・スペース



スキルアップ研修会  
(SNS関係・家庭の性教育)



授業参観日10分ミニ講話  
&ゆんたくスペース

現在1チーム配置されている屋我地ひるぎ学園では、チームメンバーが主体となり、学校と連携しながら保護者同士の交流の場づくりや学びの場の提供等を行っている。

## 主な活動内容

### 学びの場・交流の場づくり

- 授業参観日の出前講座（10分ミニ講話&ゆんたくスペース）や家庭教育に関する各種講演会、ものづくり体験講座等の実施。
- チーム研修会を定期開催してメンバー間交流や理念の共有を図り、SDGsを視野に入れた学びも深めている。



ミニ講話&フラワーアレンジメント

### 地域における支援体制づくり

- 子育てスキルアップ兼人材育成講座(初級・中級・上級)を実施し、チームメンバーは全員初級講座を受講している。  
(内容：セルフコントロール、やる気の秘密等)



### 親子参加型講座

- 親子ふれあいイベント（ヨガ・カラーセラピー・わらべうたマッサージ）、マングローブ生き物観察会を実施した。



マングローブ生き物観察会

## 令和3年度・各講座やイベント参加者の声

- 深く心が癒やされました。自分へのご褒美の貴重な時間でした。（フラワーアレンジメント講座）
- 自分も家族もみんな褒めて、脳内からハッピーにしていけるように意識したい。（10分ミニ講話）
- 親子共々楽しませて頂きました。自然の豊かさに感謝！！（親子参加型マングローブ生き物観察会）
- 自分の子育てこれでいいのか不安でしたが、講座を聞いて心が軽くなりました。（人材育成講座）

## 成果と今後の展望

学びの場・交流の機会の提供を重ねることで、つながるWaRaBarプロジェクトの周知及びチームメンバーのスキルアップに繋がった。家庭教育支援チームのメンバーが主体となり、講座等の発案・企画・運営を行った。また、コロナ禍でICT活用を併用することで、継続的に活動を行うことが出来た。

今後もチームメンバーが主体的に家庭教育支援事業を推進していけるよう、分かりやすい仕組みづくりを行い、理念の共有を図る。また、関係機関と連携し対象を広く人材発掘、育成を行い、学校・家庭・地域と連携してコミュニティ・スクールと一体的に推進していく。

# 文部科学省における家庭教育支援の推進に関する情報

子供たちの未来をはぐくむ

## 家庭教育



家庭教育支援について、各地域の取組を含めた様々な情報を文部科学省のポータルサイトに掲載。

家庭はすべての教育の出発点

子供たちにとって「家庭」は安らぎのある楽しい居場所  
社会へ巣立っていくために欠かせない場所  
親の愛情が子供の未来をつくり出す。  
親子が共に学び、育ち合う「家庭教育」を地域全体で応援する。  
どんな「やさしい社会」が、  
子供たちの「未来（あした）」をはぐくんでいきます。

→ 家庭教育ってなんだろう？

- ライブラリ → 詳しく見る
- 「お父さん」「お母さん」を楽しもう！字ぼう！ → 詳しく見る
- 地域で家庭教育を応援しよう！ → 詳しく見る
- 企業も家庭教育を応援しよう！ → 詳しく見る
- 新しいつながり合いのかたち → 詳しく見る
- 児童虐待から子供たちを守るために → 詳しく見る

インターネットで「家庭教育ってなんだろう？」と検索

### 家庭教育支援に関する各種動画等の提供



家庭教育支援チームの活動例 など  
(「YouTube」文部科学省動画チャンネル)

- メンバーの得意分野を生かした多様な取組
- 地域における支援のネットワークづくり
- 全戸訪問による相談支援 など

つろう！ 家庭教育支援チーム  
～地域の力で家庭や子供を支える～

「家庭教育支援チーム」の手引書

身近な地域において保護者への支援を行う「家庭教育支援チーム」の組織化や活動を支援することを目的としたリーフレット。



地域で「家庭教育支援チーム」を立ち上げる際に必要な視点を、事例、コラムなどを交えて整理した手引書（平成30年11月）。



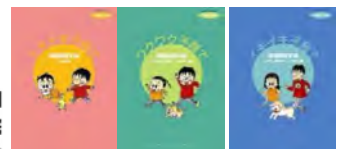
### 訪問型家庭教育支援の関係者のための手引き

地方公共団体で訪問型家庭教育支援を実施する際に、ヒントとなる情報や知見、ノウハウなどを整理。



### 家庭教育手帳

保護者などに対する子育てのヒント集として作成。  
「乳幼児編」、「小学生(低学年～中学年)編」、「小学生(高学年)～中学生編」の3種類をホームページに掲載。



## 地域の活動で子供たちや保護者に関わるみなさまへ 児童虐待への対応のポイント ～見守り・気づき・つなぐために～

家庭教育支援や地域学校協働活動等の関係者に向けて

地域の活動で子供たちや保護者に関わるみなさまへ

### 児童虐待への対応のポイント

～見守り・気づき・つなぐために～



子供たちや保護者と関わる中で「あれ？」「もしかして？」と思ったら、ためらわずに相談・通告してください。

～あなたの1本の電話で救われる子どももいます～

「児童虐待かも…」と思ったら、すぐにお電話ください。

189

児童虐待相談ダイヤル

文部科学省

児童虐待への早期対応のために、「児童虐待への対応のポイント～見守り・気づき・つなぐために～」を作成し、文部科学省のホームページに掲載しました。

この資料では、地域において児童虐待の未然防止、早期発見・早期対応ができるよう、地域における家庭教育支援関係者や、放課後子供教室などの地域学校協働活動関係者等に対して、児童虐待への対応に関して留意すべき事項をまとめています。



**児童虐待防止の流れ**

児童虐待を防止するためには、以下のフローの中で、様々な関係者が適切に対応することが必要になります。

発生予防 → 早期発見・早期対応 → 対応・支援

**日々の活動での気づきが早期発見に**

地域における家庭教育支援や地域学校協働活動などの活動は、日常的に多くの保護者や子供たちと関わり合います。いつもと違う様子や行動など、みなさまの気づきが早期発見につながります。

**活動を通じたつながりや声かけが未然防止に**

児童虐待は、地域からの孤立やサポートの減少、育児ストレスなどの様々な要因が複雑に絡み合って起こると考えられています。みなさまの関わりや日々の活動が、保護者の不安を軽減することに繋がります。

**地域社会全体で子供たちを育む体制づくり**

虐待を防止し子どもを育て、子育て・家庭教育に力や安心を届けることは、保護者だけでなく、子育て・家庭教育を通じて、保護者が安心して子育てできる体制づくり、すべての子供たちの成長を地域全体で支えている体制づくりを築いていくことが必要です。

**関係機関との連携がいざというときにも機能**

学校や子育て世代包括支援センターなどの関係機関や、スクールソーシャルワーカーなどの専門家を連携することは、家庭教育支援や地域学校協働活動の効果を高める重要な役割です。いざというときの相談・連絡と円滑に連携する上で効果的です。



# 「家庭教育支援チーム」の登録制度

## ○登録制度の趣旨

文部科学省では、すべての保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、地域において主体的に家庭教育支援の取組を行う「家庭教育支援チーム」の設置を促進するとともに、各地域の取組状況の把握や効果的な事例の収集・情報発信による全国の様々な地域における家庭教育支援の取組の活性化のために、「家庭教育支援チーム」登録制度を実施。（平成22年度～）

## ○登録のメリット

- ①文部科学省ホームページにおいてチームの活動を掲載し、全国に向けて発信
- ②文部科学省から家庭教育支援に関する情報や資料の提供
- ③家庭教育支援チームのロゴマークの使用 など

## ○登録要件

地域の多様な人材を中心に組織し、保護者への家庭教育支援の取組を行う家庭教育支援チームであり、次の（1）から（5）までの要件を満たすことが必要です。

（1）具体的な取組内容として、家庭教育の自主性を尊重しつつ、以下のア～エのいずれか又はこれらを組み合わせた取組を行うものであること。

ア 保護者等への学びの場の提供

保護者等に対する主体的な「学び」と「育ち」に関する学習機会の提供や情報提供、相談対応等

イ 保護者等への地域の居場所づくり

地域資源を活用した親子参加型の体験型プログラムの実施・情報提供や日常的な交流の場の提供等

ウ アウトリーチ型家庭教育支援（※保護者の居場所に出向いて届ける支援）

保護者の居場所（自宅や学校、企業等）に出向いての情報提供や相談対応等

エ その他、取組の目的・内容等が家庭教育支援に資するもの

（2）継続的な取組を行うものであること。


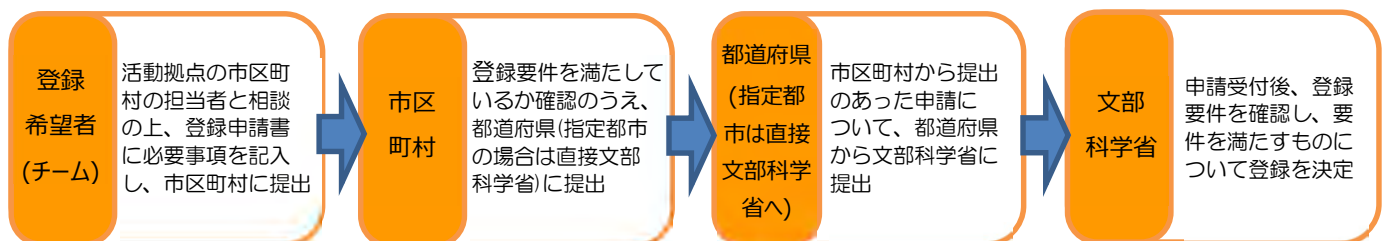
（3）営利を主たる目的とした活動を行うものでないこと。

（4）特定の宗教的色彩の強い活動を行うものでないこと。

（5）その他、家庭教育支援チームとして登録すべきでない特段の事情がないこと。


## ○登録の手続き等

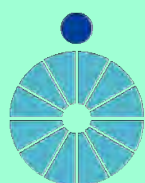
登録を希望するチームは、登録要件を満たしていることを確認し、活動を行う市区町村の家庭教育支援担当に相談のうえ、申し込み。登録期間は、登録日から翌々年度の3月31日まで。（更新可能）



**【家庭教育支援チームのロゴマーク】**  
コンセプト「温かく包む支援の輪」  
地域の人々の支援の輪が、子供や保護者の方を温かく包み込むイメージを体現したロゴマークです。

文部科学省ホームページ  
「家庭教育支援チーム」  
登録制度について





文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN